

令和7年6月11日・12日 開催

常任委員会会議録

箕輪町議会

福祉文教常任委員会審査会議録

1. 常任委員会日程 令和7年6月11日・12日

2. 会議を行った場所 箕輪町役場 303委員会室

3. 委員会審査順

審査順序	課 等 名	ページ
1	くらしの安全安心課	2～8
2	こども未来課	8～10
3	健康推進課	10～15
4	文化スポーツ課	15～16
5	福祉課	16～24
6	学校教育課	24～34
7	請願・陳情	34～57

議事のでんまつ

午前9時 開会

【①くらしの安全安心課】

○10番 寺平福祉文教常任委員長 それでは、ただいまより福祉文教常任委員会を開催いたします。ただいまの出席委員は7名です。会議録署名議員を指名します。会議録署名委員に4番 白鳥委員、8番 小口委員を指名いたします。

それでは、議案第3号 令和7年度箕輪町一般会計補正予算（第2号）くらしの安全安心課に係る部分を議題といたします。説明を求めます。課長

○小田切くらしの安全安心課長 それでは、議案書の一般の10ページをお願いいたします。

正規職員等の給料ですとか手当に伴います増減につきましては、一括して総務課の人事係のほうから説明があらうかと思しますので、ここでは割愛させていただきますのでお願いいたします。

一般、10ページの一番下段になります、説明のところの。

多文化共生事業費212になります。こちら、一般職の給料の増減は省きまして、続いての11ページになります。

一般職員普通旅費の増8万4,000円並びに、その2行下の外国人支援コーディネーター養成講座負担金3万円の増。こちらにつきましては現在、外国人生活相談員という通訳さんというか翻訳者さんがお二人いらっしゃるんですが、こちらのお二人に外国人支援コーディネーターっていう、そういう資格が昨年度、初めて国のほうでつくられまして、そちらの認定を受けるために通常はWebでやっていて、最後に東京のほうに行って研修を受けて、試験を受けていただくんですが、その旅費と講座の負担金になります。

もう一つがですね、防災関連事業委託料の減10万円ですが、こちらにつきましては当初、町の単独費のほうで予定していたんですが、CLAIRという自治体、国際化協会っていうところがあるんですが、そちらのほうの事業っていうか、そちらから補助金をもらって事業が実施できる見込みができましたので、ここで10万円の減をするものでございます。

続きまして、次の12ページをお開きください。

総務費の6の企画費の中の真ん中辺です。男女共同参画、若者女性活躍推進費、233の事業になります。こちら、年度当初には想定していなかったんですが、人員が厳しき折、正規職員一元になりまして、それではなかなか事業が回っていかないということもありまして、非常勤会計年度任用職員ということで、一応、多様性社会推進コーディネーターというお名前でお一人、雇い上げたいということで補正をお願いするものです。こちらですが、財源といたしましては地域おこし協力隊の制度を使ってお願いしたいと思っております。この多様性社会推進コーディネーターって何かっていうところですが、男女共同参画と女性活躍、また若者活躍、あとジェンダー平等、これらを担当していただくコーディネーターになります。それに関わります報酬ですとか期末勤勉手当、社会保険、雇用保険、費用弁償と、あと活動費のほうを計上してございます。一応、最短で7月ぐらいからいけ

ればいいかなと思っているんですが、7月から3月分までの9か月間ですかね、の計上をした数字になっております。全部で306万2,000円になっております。こちら、総務省のほうから財源的には100%、補填される予定、交付税として措置がある予定ですので、町の持ち出しはゼロでいけるかなと思っています。

説明については以上です。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 説明が終わりましたので、これから質疑に入ります。質疑ございますか。南委員

○9番 南委員 もう少し詳しくお伺いしたいんですけど、その地域おこし協力隊を雇い上げる開始は、いつからになりますか。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 課長

○小田切くらしの安全安心課長 こちらですが、要は3月の内示がありまして、人が1人いないと。じゃあ、どうしようってなったときに、そこから動いていったんですけど、実際にお金が、幾ら雇い上げたくても補正がつくのが6月以降ですので、実際に募集とか要綱とか定めて動いてはいます。ですけど、どうしてもお金がつくのは6月以降ということで、最短でいって7月1日から採用です。ですが、まだ応募は一応、応募者2人ありまして、これから面接等になりますが、相手の都合もありますし、もう引っ越してきていただくということになりますので、ちょっとすぐにはいかなかなと。遅くとも8月1日ぐらいには着任できるんじゃないかなというところで予定しております。

以上です。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 南委員

○9番 南委員 その後の期間っていうか、何年契約、地域おこしだと1年ごとで契約更新になると思うんですけど、その辺りはどういうふうに考えられていますか。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 課長

○小田切くらしの安全安心課長 地域おこし協力隊、二つ種類ありまして、ミッション型と、今回募集しているのは会計年度任用型といいまして、なので1年度ずつの基本的には契約更新になります。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 課長、ちょっと後半部分、もう一回、すいません。

○小田切くらしの安全安心課長 会計年度さんと一緒なので、年度、年度になります。この地域おこし協力隊の制度を使っておりますので、最長3年間ということで考えております。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 よろしいですか。ほかにございますか。白鳥委員

○4番 白鳥委員 3年後については、どうするかっていうのは、また予定は今のところ立っていない状況ですかね。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 課長

○小田切くらしの安全安心課長 今回は、何て言うんですかね、地域おこし協力隊には2パターンあると思っていまして、何か起業をしていただいて、その後、定住をお願いする

っていうパターンと、今回は町としてはこの業務をやってくださいよと、定住についてはもちろんしていただければなんですけれど、普通に月曜日から金曜日まで、私たちとほとんど同じ時間を役場の机に座って過ごしていただきますので、なかなか今いるミッション型の人たちみたいに起業とか、そういうことは厳しいのかなと思っております。ただ、資料っていうか、募集のその何て言うんですかね、履歴書等を見る限りでは、箕輪町を気に入って、こちらでその業務が終わった後には何かしたいっていうふうに一応、紙上ですけど言っていますので、その辺のところは協力できるところは協力していきたいなと思っております。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 よろしいですか。南委員

○9番 南委員 多文化と男女共同と若者と、ちょっと分野が結構広いと思うんですけれど、その募集に当たって、多分、全部得意ですっていう人はいないと思うんですよね。応募が2人いらしてるっていう形で、どこに重きを置いているっていうか、どれ得意な人なのか、今来ている状況ではどんな感じなのか。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 課長

○小田切くらしの安全安心課長 多文化は職員がほかにいるので担当せずに、男女共同参画と若者と女性活躍、あとジェンダー平等ですね。なので、これの中で一番大きいのは、やっぱり男女共同参画かなと思っております。これらを例えば前職でやってらっしゃる方なんてほとんどいないんですね。本当に公務員で、そこの担当をやっていればなんですけど、そうじゃない限り、ほとんどいらっしゃらなくて。歴を見る中では、何ですかね、前職の、例えば人事系統をやっているとか、そういう方かなっていうふうに思っていますけど、なかなかですね、やっぱり一応そういうのがもしあればということで、お願いはしているんですけれど、なかなかこれにピンポイントで、特にジェンダー平等なんて普通の方には仕事に直結している人なんて、なかなかいらっしゃらないのかなと思っております。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ほかにございますか。中村委員

○13番 中村委員 一応、会計年度だけでも、一応、地域協力隊っていうような立場で入ってくるということで、よくあそこでやっている年間の活動の発表とか、そういうことも対象になってくるんですか、この人が。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 課長

○小田切くらしの安全安心課長 ミッション型ではありませんので、こういう課題があって、こういうっていうことは、ほかの協力隊の皆さんと一緒にあの場でやるってことはないかと思います。会計年度さんですので、あるとすればうちの何ていうんですか、成果とか実績として報告するようになろうかと思います。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ほかにございますか。

ちょっと私のほうから。もう一個のほうの11ページの外国人支援コーディネーター養成講座について、ちょっとお尋ねしたいんですけど。これ、ちょっと概要はホームページで見えているんですけれども、これ資格取得後のいわゆるフォローですね、これってどうい

フォローがあるのか、継続した研修があるのか、取りあえずこの講座は1回受けて終了なのか、それとも継続したフォローがあるのかっていうのは、これはこういった感じになりますでしょうか。課長

○小田切くらしの安全安心課長　こちら、出入国在留管理庁がやっているんですけど、そういった点に関しまして、全く知らされておられません、情報が。これ、去年からできたって言ったんですが、実際にこのコーディネーター養成講座をやって、その人たちがこの資格があるから例えば補助金が多くつくとか、そういうのであれば積極的に受けるんですけど、そういうことは今のところはありません。ただ、この外国人生活相談員の人件費の半分を国から補助を受けて、外国人環境整備受入交付金かな、というのをもらっているんですが、行く行くは多分こういう人たちを抱えているところには通りやすいというか、何ていうんですかね。今お金がなくてですね、うちが例えば内示額を300万で上げても、満額来てない状況なんですよ。ですけど、こういう資格を持った人を配置することによって、その率が変わってくるのではないかなというふうな、そういう、あって全国で今回2期やるんですけど、60人60人なんですよ。なので、ある意味、早い者勝ちかなと思っておりまして、今回、応募することにしました。

内容的には多分、何やるか分かってないと思うんですけど、簡単に言うと単なる通訳ではなくて、例えば在留資格の問題ですとか、生活保護の問題ですとか、福祉の問題ですとか、そういうもう3歩ぐらい先に進んだ通訳、翻訳者というか、そういうのを目指したものですので、我々一般職員が研修を受けるのと同じようにやっていきたいかなと思っております。

以上です。

○10番　寺平福祉文教常任委員長　今回、この養成研修を受ける趣旨は分かりました。特に外国人支援に関しては、年々状況が変わって、最新の取組状況というのは町でも知る必要があると思って。ぜひ、この外国人支援コーディネーターのフォロー講座があるのであれば継続的に受けていただいて、もしないのであれば同様のまた、やっぱ研修って大事だと思うんですけども、人材育成という面では。そういった取組については何か考えはありますか。課長

○小田切くらしの安全安心課長　こういった養成研修、もちろんいろんなものが来まして、その都度、必要であれば受けております。また、この出入国在留管理庁のほうで、定期的に情報交換会というか相談会っていうのを、Webですけど全国の地方自治体向けにやっております、長野県で町村レベルではうちだけです。普通は、大体もう少し大きな市とかを対象にしてやっているのでも全国で50ぐらいだったと思いますけど、そこに定期的に研修というか、相談とかを受けることによって、いろんな情報とか知識を得ていますので、またそういったものを活用しながらやっていきたいと思っております。

以上です。

○10番　寺平福祉文教常任委員長　南委員

○9番 南委員 今、この資格を取った方っていうのは、言語は何の言葉に長けている方ですか。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 課長。

○小田切くらしの安全安心課長 お二人いるんですけど、お二人ともポルトガル語です。何でポルトガル語かっていうと、今、箕輪町に住んでいる6割以上の外国籍住民の方がブラジルというか、ポルトガル語を使用する関係で、お二人ともポルトガル語となっております。

以上です。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 南委員

○9番 南委員 ちょっと外れちゃうかもしれないんですけど、今、役場の中で対応可能な言語って何語が、何カ国語できるのかなという。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 課長

○小田切くらしの安全安心課長 相対でしゃべる分には恐らくポルトガル語のみです。あとは、幾らかですけれど、幾らかというよりは、今は通訳翻訳アプリといいまして、そういったものも活用したり、あと、この4月に導入したんですがヤラクゼンという翻訳ツールがあるんですね。それを通じますと日本語を例えば、A課からうちに、これをベトナム語に訳してって依頼を受けますと、日本語って主語とか省いていますよね。なので、そのヤラクゼンっていうところにいきなり通してもいい翻訳ができないので一回、日本語からポルトガル語に、その外国人生活相談員が直します。そうすると、主語、述語とか文法的に整ってAI翻訳がしやすくなります。そこから一回、ポルトガル語を通じてベトナム語に落としたりします。なので、そういった文章的なものはAIを使ってやりますので、どんな言語でもほぼほぼいける状況です。ですけど、そんなにめったにいませんので、ポルトガル語、中国語、ベトナム語、英語というカタログ語、あともう1個、インドネシア語かな、そのぐらい、日本語プラス5言語やれば、外国人住民の方と85%ぐらいはフォローできているはずですので、まずはその5言語かなと思っています。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 南委員

○9番 南委員 だとすると、今のところ窓口で来られて、言語に困ったっていう状況はないということで大丈夫ですね。

○小田切くらしの安全安心課長 はい。何とか四苦八苦しながらになります。やっぱり我々日本人が、いきなり外国の人に相対すると、ドキドキしたら駄目ですけど、やっぱりブラジルの出身の方々、慣れているので、いろんな言語の方と接触するのは。そこで、やっぱり大きな違いがあるのかなと思っています。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ほかによろしいですか。小出嶋委員

○14番 小出嶋委員 今の11ページの委託料ですけど、CLAIRっていうのはどういう組織ですかっていうことと、ちょっとこの内容をもう一回、ちょっと説明をお願いしたいと思います。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 課長

○小田切くらしの安全安心課長 CLAIRとは通称の名前でして、正式名称が自治体国際化協会かな、法人ですけど全国組織です。そちらが、自治体が国際化に近づくためにいろんな事業をやっておりまして、それに対する補助金を頂けるところでございます。こちらにつきましては、防災に関わる何ていうんですかね、今年度予定しているのは、明星大学という大学の准教授さんをお呼びして、明星大学か、千葉県ですかね、だと思いますけど、菊池先生という先生がいらっしゃるんですけど、その方をお呼びして、防災のその方がやっている「ニース」っていう、何ですかね、実践的っていうか、机上でやる防災の訓練があるんですけど、そこに日本人と外国人の方、両方合わさってやるのを予定していたんですが、そちらのほうを申請しましたらオーケーですっていうところまでこぎ着けられそうですので、そういった意味で予定していた10万円のほうを減額するものでございます。

○14番 小出嶋委員 そこでやってくれるということなんだね。

○小田切くらしの安全安心課長 はい、こちらに来て。一応、今のところ9月6日の日曜日に、本当は防災訓練のときにやればいいかなと思ったんですけど、ちょっと町本体の防災訓練もあるのに同時にやるのはちょっとっていうことで翌週になってしまうんですけど、9月6日にやる予定でございます。

○14番 小出嶋委員 はい、分かりました。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 よろしいでしょうか。ほかにございますか。小口委員

○8番 小口委員 さっきの男女共同参画のほうのコーディネーターさんの話に戻るんですけども、若者活躍とかジェンダーとか、やっぱり企業さんとか学校とかいろいろな提携したほうがいいと思うんですが、その方をお願いして学校課と連携するとか、そういうことを密にやっていく予定はありますでしょうか。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 課長

○小田切くらしの安全安心課長 議員おっしゃるとおり、企業ですとか、また教育委員会ですとか、そういったところと協力しなければ、いずれにしてもやれない分野ですので、ここでマンパワーがつくことになりますので、3年間かけてしっかりと、そちらとも連携しながらやっていきたいと思っております。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ほかにございますか。よろしいですかね。

(「なし」の声あり)

○10番 寺平福祉文教常任委員長 それでは、質疑を打ち切ります。

討論に入ります。討論ございますか。

(「なし」の声あり)

○10番 寺平福祉文教常任委員長 討論なしと認めます。

それでは、採決をいたします。議案第3号 令和7年度箕輪町一般会計補正予算（第2号）くらしの安全安心課に係る部分を原案どおり可決することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ご異議なしと認め、原案どおり可決すべきものと決しましたので、その旨を本会議で報告いたします。

【くらしの安全安心課 終了】

【②こども未来課】

○10番 寺平福祉文教常任委員長 それでは、こども未来課に関わる審査を開始したいと思います。課長、自己紹介を。課長

○高橋こども未来課長 お時間いただいて、4月に人事異動がありましたので、職員の紹介をさせていただければと思います。よろしくお願いいたします。

こども未来課長の高橋と申します。引続きになりますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

○前島保育園室長 引続きになります、保育園室長の前島と申します。よろしくお願いいたします。

○三井保育園係長 この4月からこども未来課保育園室保育園係担当係長をしております、三井亜矢と申します。よろしくお願いいたします。

○久保田保育園係長 保育園係の久保田です。引続きよろしくお願いいたします。

○鈴木支援係長 支援係の鈴木です。引続きです。よろしくお願いいたします。

○北澤相談係長 相談係の北澤です。引続きでよろしくお願いいたします。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ありがとうございます。じゃあ、委員の方も。

委員長の寺平です。よろしくお願いいたします。じゃあ、こっちから。一応、全員。

○11番 北野委員 副委員長の北野です。よろしくお願いいたします。

○8番 小口委員 小口です。よろしくお願いいたします。

○9番 南委員 総務から移動してきました。こっちの方知らないこと多いのでいろいろと聞かせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○4番 白鳥委員 白鳥です。引続きよろしくお願いいたします。

○13番 中村委員 中村です。よろしくお願いいたします。

○14番 小出嶋委員 小出嶋です。よろしくお願いいたします。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 それでは、議案第3号 令和7年度箕輪町一般会計補正予算（第2号）こども未来課に係る部分を議題といたします。

説明を求めます。室長

○前島保育園室長 第3号議案 令和7年度箕輪町一般会計補正予算（第2号）のこども未来課に係る部分につきましてご説明をいたしますが、人件費に係る部分につきましては総務で一括しての説明となりますので、そちら以外の、人件費以外の部分につきまして、担当係長よりご説明いたしますのでよろしくお願いいたします。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 順次、説明をお願いします。係長

○三井こども未来課係長 それでは、令和7年度箕輪町一般会計予算補正予算（第2号）について説明させていただきます。

16ページをお開きください。

民生費、発達支援費の中の児童発達支援事業費について、16ページの一番上の報償費が26万4,000円増、それに伴う旅費を1万8,000円増として補正するものになります。こちらは若草園において公認心理師による相談事業、子どもや保護者への相談支援としまして、県事業による派遣を想定していたところ、専門職の派遣が確保できないということで、急遽、町のほうで昨年までお願いしていた心理士に依頼し、相談実施することとなったため、謝礼としてお願いする分の補正となります。また、これに伴い費用弁償としまして、旅費についても1万8,000円の増として補正をお願いするものです。

以上、こども未来課の補正予算になります。お願いいたします。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ただいま説明が終わりましたので、質疑に入ります。質疑ございますか。南委員

○9番 南委員 もう少し詳しく教えていただきたいんですけど、県から派遣ができないところの理由ってありますか。できなくなった理由。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 室長

○前島保育園室長 県のほうがですね、上伊那の「きらりあ」さん、という事業所に委託をしまして、専門職の派遣事業っていうのをされているんですが、やはりなかなか公認心理師さんっていう職種の確保が難しいっていうことでして。町のほうはたまたま去年、お願いできる方がいらっしゃったんですけれども、お話ししたところ若草のほう、入っていただけるということだったので、もう直接こちらからお願いするっていう形になって、ちょっと県の事業のほうがその方、受けられてないってことだったので、町のほうで直接依頼して、相談事業を行うこととなりました。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 よろしいですか。ほかにございますか。小口委員

○8番 小口委員 その相談の頻度というか、どんな感じになってますでしょうか。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 係長

○三井保育園係長 若草園の心理士の相談につきましては月2回行っております。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 小口委員

○8番 小口委員 関連して、月2回ということですが、各回どれくらいの方が相談を受けてらっしゃいますか。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 室長

○前島保育園室長 おおよそ半日、午前中半日お願いしているんですけれども、大体毎回お一人のお子さんの予約で保護者の方も来ていただいて、心理士さんがみえて、お子さんのその過ごす様子を見ていただいた後に保護者の方も交えての相談。その後、職員とカンファレンスというか、を行うっていうような流れになっております。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 よろしいでしょうか。南委員

○9番 南委員 月2回って、何か少ないのかなと思ったんですけど、その方は、ほかの時間はどこにいらっしゃるのか。ほかで受けて、お仕事ある、ない。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 室長

○前島保育園室長 フリーランスの方なので、ちょっとそこまでは、町のほうでは把握というか、はしておりません。もともと滝小児科さんにいらしゃった心理士さんっていうことです。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 つまり、月2回の相談頻度の妥当性は現状、妥当であるという形でよろしいですかね。室長

○前島保育園室長 そうですね。若草園では今年度10名、お子さん10名いらっしゃるんですけども、月2回で保護者の方もお勤めされていたりするので、なかなか日が取れる、しょっちゅう日が取れるってことはないですし、月2回で動いております。そのほかにも、若草のほうは言語聴覚士の相談ですとか、あと作業療法士さんに入っていたいたりということがございますので、そういった専門職にも見ていただきながら実施をしているところです。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ほかにございますか。よろしいですかね。

(「なし」の声あり)

○10番 寺平福祉文教常任委員長 それでは、質疑を打ち切ります。

次に討論に入ります。討論ございますか。

(「なし」の声あり)

○10番 寺平福祉文教常任委員長 討論なしと認めます。

それでは、採決に入ります。

議案第3号 令和7年度箕輪町一般会計補正予算（第2号）こども未来課に係る部分を原案どおり可決することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ご異議ないものと認め、可決すべきものと決しましたので、その旨を本会議で報告いたします。

【こども未来課 終了】

【③健康推進課】

○10番 寺平福祉文教常任委員長 それでは、会議を再開いたします。

健康推進課に係る審査を始めたいと思います。まず編成後、初めての委員会ですので、自己紹介を課のほうから、お願いします。

○北原健康推進課長 健康推進課長の北原美幸と申します。よろしくお願いいたします。

○小林健康づくり支援係長 健康づくり支援係長の小林陽子と申します。よろしくお願いいたします。

○小林国保医療係長 国保医療係長の小林美奈子と申します。よろしくお願いいたします。

○三井健康づくり支援担当係長 健康づくり支援担当係長の三井珠子と申します。よろしくお願いいたします。

○唐澤健康推進課統括係長 健康推進課統括係長の唐澤久美子と申します。よろしくお願いいたします。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ありがとうございます。委員会のほうから、委員長の寺平です。よろしくお願いいたします。

○11番 北野委員 副委員長の北野です。よろしくお願いいたします。

○8番 小口委員 小口です。引続きよろしくお願いいたします。

○9番 南委員 総務から移りました、南です。よろしくお願いいたします。

○4番 白鳥委員 引続きよろしくお願いいたします。白鳥です。

○13番 中村委員 中村です。よろしくお願いいたします。

○14番 小出嶋委員 小出嶋です。よろしくお願いいたします。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 それでは、議案第3号 令和7年度箕輪町一般会計補正予算（第2号）健康推進課に係る部分を議題といたします。細部説明を求めます。課長

○北原健康推進課長 一般会計補正予算（第2号）につきまして、健康づくり支援係長の小林係長のほうからご説明いたします。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 係長

○小林健康づくり支援係長 それでは、議案第3号 一般会計の16ページをお開きいただきたいと思います。

4衛生費、1保健衛生総務費の0401一般保険費でございます。人事異動による給料のほうの補正がございます。そのほか、18負担金のほうで、上伊那口腔保健センター、DX機器購入負担金を計上させていただいております。こちらは休日歯科当番医について、上伊那ではセンター方式を採っています。そこで使用するデジタル機器になります。レセプトコンピュータ、デジタルレントゲン、レントゲン閲覧用iPadの購入費を上伊那8市町村で案分した額の負担金でございます。

続きまして、0403の成人予防接種事業費になります。補助金のほうで、予防接種健康被害給付金のほうを15万6,000円計上させていただいております。こちらは新型コロナウイルスワクチン予防接種後、健康被害救済制度で申請された方の医療手当でございます。国の補助が10分の10ですので、併せて同額の歳入についても計上させていただいております。こちらが8ページのほうになります。歳入のほうでございます。国庫支出金の4衛生費国庫負担金のほうになりまして、新型コロナウイルスワクチン接種対策費国庫負担金を計上させていただいております。

また16ページに戻りまして、3老人保健費のほうの0424後期高齢者医療事業費でございます。こちらは人事異動による職員の給料のほうで補正をさせていただいております、後ほど国保の係長のほうから詳細のご説明を差し上げます。

以上です。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 細部説明が終わりましたので、質疑に入ります。質疑ございますか。小出嶋委員

○14番 小出嶋委員 この口腔保健センターのDX機器の購入費っていうのは、これは何で当初じゃなくて今頃、出てきたのかっていうことと、その下の予防接種健康被害の給付金って、これは何人でしょうか。お願いします。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 課長

○北原健康推進課長 まず、私のほうから口腔保健センターのこの負担金が、なぜこの時期になったかということに対する回答なんですけれども、この機器に対して補助をすることに対して、ずっと協議をしております、その協議の結論が予算の時期に間に合わなかったということで、このタイミングでの補正となっています。お願いいたします。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 小林係長

○小林健康づくり支援係長 続きまして、予防接種の健康被害の件ですけれども、現在3人の方が申請をしております、そのうち2人の方は認定という形になっております。3番目の申請の方は、まだ国からの結果が来ないという状態でございます。

○14番 小出嶋委員 この対象になってるもの、僅か3人ってことですね。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 係長

○小林健康づくり支援係長 今回の計上につきましては、お一人の方の分になります。

○14番 小出嶋委員 分かりました。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 南委員

○9番 南委員 もう少し詳しく、その3人の方はこういった症状で訴えてらっしゃるんですか。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 係長

○小林健康づくり支援係長 3人の方の症状なんですけれども、お一人は頭痛、嘔吐から始まって脳出血があった方ですが、その方は現在、軽快しております、若干めまいが残っているという状態です。お二人の方はめまいが主症状でして、軽快はしておりますが多少、続いているようです。3番目の方は、両下肢の張り痛みがあった方なんですけれども、まだ認定になっているか、いないかも分からないのと、その方はよかったり、よくなかったりみたいなんですけれども、ちょっと詳細はこのところ、連絡取っていないので分かりません。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 南委員

○9番 南委員 連絡取っていないっていうのは、やっぱりその後、お加減いかがですかみたいなのは、こちらから電話されているっていうことですか。それとも、掛かってくるのを、大体、訴えを待つのか。今の感じだと、こっちからの一応リアクション取っているのかなと思ったんですけど。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 係長

○小林健康づくり支援係長 大体、前のお二人の方は、領収書を持っておみえになったと

きに、お加減いかがですかというような形です。3人目の方は、申請したときにお話を伺って、その後は聞いてないので分からないということです。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ほかにございますか。小口委員

○8番 小口委員 その3番目の方、両下肢の張り痛みってということなんですけれど、ワクチンを打ってからどれくらいの期間がたって、そのようになったんでしょうか。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 係長

○小林健康づくり支援係長 ワクチンを打ってから、こちらに相談になったのが1年後とかなんですよね。すみません、2年後です、相談にみえたのが2年後で、症状が出たのは1年半後です。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 打ってから。

○小林健康づくり支援係長 打ってから1年半後です。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 それで、打ってから2年後に。

○小林健康づくり支援係長 そうです。それで半年いろいろ加療されて、もしかしたらということでご相談におみえになったっていう形になっていますので、すぐではなかったですね。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 南委員

○9番 南委員 その3人の方、それぞれ何回ワクチンを打っていらっしゃいますか。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 係長

○小林健康づくり支援係長 お一人目の方は2回です。二人目の方は3回です。三人目の方も3回です。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 南委員

○9番 南委員 それぞれ年齢、何歳代でいいんで。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 係長

○小林健康づくり支援係長 60代、50代、50代です。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ほかにございますか。南委員

○9番 南委員 ちょっと、分かるかどうかなんですけど、今までにコロナワクチン以外でほかのインフルエンザとかの予防接種で、そういうような訴えっていうのは、毎年あるのか、ないのか。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 係長

○小林健康づくり支援係長 全ての予防接種に、この救済制度というのがございますけれども、今のところございません。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ほかにございますか。よろしいですかね。

(「なし」の声あり)

○10番 寺平福祉文教常任委員長 それでは、質疑を終了して討論に入ります。討論ございますか。

(「なし」の声あり)

○10番 寺平福祉文教常任委員長 討論なしと認めます。

それでは、採決に入ります。

議案第3号 令和7年度箕輪町一般会計補正予算（第2号）健康推進課に係る部分を原案どおり可決すべきものと決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ご異議なしと認め、可決すべきものと決しましたので、本会議でその旨を報告いたします。

それでは、議案第4号 令和7年度箕輪町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）を議題といたします。細部説明を求めます。課長

○北原健康推進課長 議案第4号 令和7年度箕輪町後期高齢者医療特別会計補正予算につきまして、国保医療係の小林係長からご説明いたします。

○小林国保医療係長 私のほうから、箕輪町後期高齢者医療特別会計補正予算についてご説明いたします。

後期の7ページからお願いいたします。

歳出になりますが、1款 総務費の6700一般管理費でございますが、こちらは職員の人事異動による人件費の減額となっております。

後期の6ページに行きまして、歳入になりますが、4款 繰入金の総務費繰入金でございますが、こちらが歳出に伴う一般会計からの繰入金の減となっております。

説明は以上になります。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 説明が終わりましたので質疑に入ります。質疑ございますか。南委員

○9番 南委員 確か、本会議場でもちょっと説明あったように思うんですけど、介護事業が減ったからっていうことでしたか。関係ないんですかね。ちょっと私が聞き間違いかな。分かりました。減の要因的には何ですかね。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 課長

○北原健康推進課長 人事異動に伴うもので、人数的には変わっておりません。2名の職員の人件費ということでは変わっておりませんが、主幹級の職員がおりましたが再任用職員になったことで内容が変わったということになります。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 よろしいですか。ほかにございますか。

（「なし」の声あり）

○10番 寺平福祉文教常任委員長 それでは、質疑を打ち切ります。

討論に入ります。討論ございますか。

（「なし」の声あり）

○10番 寺平福祉文教常任委員長 討論なしと認めます。

採決をいたします。

議案第4号 令和7年度箕輪町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）について、原

案どおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ご異議なしと認め、可決すべきものと決しましたので、その旨を本会議で報告いたします。（録音中断）

○10番 寺平福祉文教常任委員長 会議を再開いたします。健康推進課長より発言を求められておりますので指名いたします。課長

○北原健康推進課長 先ほどのご質問の中で、後期の人件費の関係のところ、すいません、1点訂正をさせていただきます。職員のほう2名というふうに回答いたしましたが、この予算に係る部分については正規の職員になりますので、1名ということで訂正させていただきます。大変失礼いたしました。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 この件はよろしいですかね。はい。

【健康推進課 終了】

【④文化スポーツ課】

○10番 寺平福祉文教常任委員長 それでは、会議を再開いたします。ただいまより、文化スポーツ課に係る審査を開始したいと思います。議会編成後の初めての議会ですので、自己紹介を課と委員のほうでしたいと思いますので、まず課のほうからよろしくお願いいたします。

○小澤文化スポーツ課長 文化スポーツ課長の小澤です。どうぞよろしくお願いいたします。

○柴博物館長 郷土博物館長の柴と申します。引き続き、よろしくお願いいたします。

○丸山公民館主事 この4月から公民館主事ということで来ました。丸山と申します。よろしくお願いいたします。

○赤松生涯学習係長 生涯学習係長の赤松と申します。よろしくお願いいたします。

○西出スポーツ振興係 スポーツ振興係の西出と言います。河西係長はちょっとフェンシングの関係で来客中です。よろしくお願いいたします。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 委員長の寺平です。よろしくお願いいたします。

○11番 北野福祉文教常任副委員長 副委員長の北野です。よろしくお願いいたします。

○8番 小口委員 小口です。引続きよろしくお願いいたします。

○9番 南委員 総務から移りました、南です。よろしくお願いいたします。

○4番 白鳥委員 白鳥です。引続きよろしくお願いいたします。

○13番 中村委員 中村です。よろしくお願いいたします。

○14番 小出嶋委員 小出嶋です。よろしくお願いいたします。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 それでは議事に入ります。

議案第3号 令和7年度箕輪町一般会計補正予算（第2号）文化スポーツ課に係る部分を議題といたします。細部説明を求めます。課長

○小澤文化スポーツ課長 議案第3号 令和7年度箕輪町一般会計補正予算（第2号）につ

いてですが、今回は人事異動に伴う職員の人件費が主なものであり、総務課案件ということで、文化スポーツ課からは特にございませんので、説明を省略させていただきたいと思っております。

以上です。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 説明が終わりましたので質疑に入ります。質疑ございますか。質疑あってもね、人件費だからね。よろしいですかね。協議会で、もしあれば。質疑を終了し、討論に入ります。討論ございますか。

(「なし」の声あり)

○10番 寺平福祉文教常任委員長 討論なしと認めます。討論を打ち切ります。

採決に入ります。

議案第3号 令和7年度箕輪町一般会計補正予算(第2号)文化スポーツ課に係る部分を原案どおり可決することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ご異議なしと認め、原案どおり可決すべきものと決しましたので、本会議で報告いたします。

【文化スポーツ課 終了】

【⑤福祉課】

○10番 寺平福祉文教常任委員長 それでは、議案第3号 令和7年度箕輪町一般会計補正予算(第2号)福祉課に係る部分を議題といたします。細部説明を求めます。課長

○小池福祉課長 それでは、議案第3号 令和7年度箕輪町一般会計補正予算(第2号)福祉課に係る部分についてご説明を申し上げます。

予算書、すいません、15ページをお開きください。

民生費、老人福祉費の中から、介護保険事業の運営費として繰出金につきまして405万6,000円につきまして減額を求めるものでございます。なお、こちらにつきましては介護保険の議案の中で申し上げますが、人件費に係る部分でございます。

説明は以上です。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 説明が終わりましたので、質疑に入ります。質疑ございますか。

(「なし」の声あり)

○10番 寺平福祉文教常任委員長 それでは、質疑を終了し討論に入ります。討論ございますか。

(「なし」の声あり)

○10番 寺平福祉文教常任委員長 討論を打ち切ります。

採決に入ります。

議案第3号 令和7年度箕輪町一般会計補正予算(第2号)福祉課に係る部分を原案どお

り可決すべきものと決することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ご異議なしと認め可決すべきものと決しましたので、その旨を本会議で報告いたします。

次に、議案第5号 令和7年度箕輪町介護保険特別会計補正予算（第1号）を議題といたします。細部説明を求めます。課長

○小池福祉課長 それでは、議案第5号 令和7年度箕輪町介護保険特別会計補正予算（第1号）につきまして、担当の係長のほうから説明をさせます。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 係長

○小林介護保険係長 それでは、介護の6ページのほうをお願いします。

歳入でございます。先ほど課長から申し上げましたが、一般会計からの繰入金ということで、事務費等繰入金の減ということで405万6,000円を減額するものでございます。

介護の7ページをお願いします。

右側の説明のところ、事業コード3100一般管理費でございますが、こちらのほうは4月の人事異動に伴う人件費の補正となっております。

次の段のところの3106認定調査等費でございますが、会計年度任用職員、介護認定の調査員でございますが、お二人分の単価の見直しが当初予算に反映されていませんでしたので、ここで補正をするものでございます。

介護の8ページをお願いします。

3153一般介護予防事業費でございますが、とその下の段、包括的支援事業費、3154でございますが、それぞれ4月の人事異動に伴う人件費の補正となっております。

ご説明につきましては以上となります。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 細部説明が終了しましたので、質疑に入ります。質疑ございますか。南委員

○9番 南委員 人事異動に伴う人件費の削減ということで、もう少し詳しい理由を教えてください。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 小林係長

○小林介護保険係長 9ページのところに、一般職の関係で職員数のところでございます。

(1) 総括、介護の9ページでございます。

補正前が6人ということで、補正後が5人ということで、包括のほうで正規職員が1人減となっております、少し大きな金額が補正されているということになります。

以上です。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 南委員

○9番 南委員 トータルの人数が1人減ったっていうことの判断でいいんですか。職員数として。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 土岐係長

○土岐高齢者支援係長 当初予算での人件費については、令和6年度当初の人件費を盛り、予算を編成いたします。7年度につきましては、7年度に入ってから実際の配置に合わせた人件費に調整して、人件費を調整するっていうことが常になっております。くだんのところにつきましては前年度と比べたときに、もともと予算が前年度当初で持っていて使わなかった部分があった部分との対比っていうことがありまして、実人数としては変わっておりません。なんですけれども、予算として現実にあったっていうことでございます。

それとですね、ちょっと特殊な要因がありまして、社会福祉協議会から1名、派遣で来ていただいたことがありましたので、人件費に関わらない部分ですね、そういうこともあったということ、行ってこいなどがありましたっていうことで、ちょっと複雑に絡み合っておりますけれども、そのような状況です。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ほかにございますか。白鳥委員

○4番 白鳥委員 介護の7ページの介護認定の職員報酬、単価の見直しが2人分されてなかったと。2人分、介護認定のですね、されてなかったんですけども。ほかに、こういう落ちはないっていうことでよろしいでしょうか。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 小林係長

○小林介護保険係長 すいません、ちょっと私も引継ぎで確認しているところなんですけれども、これ以外の落ちはないということで今回、補正をさしていただいております。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 白鳥委員

○4番 白鳥委員 トータルの介護認定の調査員については、変更はないということでよろしいでしょうか。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 係長

○小林介護保険係長 人数についての変更はございません。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 よろしいですかね。ほかにございますか。

(「なし」の声あり)

○10番 寺平福祉文教常任委員長 それでは、質疑を終了し討論に入ります。討論ございますか。

(「なし」の声あり)

○10番 寺平福祉文教常任委員長 討論なしと認めます。

採決に入ります。

議案第5号 令和7年度箕輪町介護保険特別会計補正予算(第1号)を原案どおり可決すべきものと決することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ご異議なしと認め可決すべきものと決しましたので、その旨を本会議で報告いたします。

続きまして、議案第10号 財産の無償貸付けについて、を議題といたします。細部説明を求めます。課長

○小池福祉課長 それでは、議案第10号 財産の無償貸付けにつきまして、細部説明を申し上げます。議案書並びに本会議でお配りしました資料のほうをご覧ください。

貸付けの目的につきましては、町内に不足している障害者グループホームにつきまして、民間福祉事業所による障害者施設を誘致するためとなっております。

貸付けする土地につきましては、箕輪町中箕輪980番の12、1,388.09平米。同番1は3,524.54平米という大きい面積になるんですが、これは現地のほうで確認していただいたと思うんですけども、2階建てが建っているほうの地番は一筆になっておりますので、そのうちの41.82平米。それから同番の14が11.53平米のうち6.6平米。それから同番の11、駐車場の三角形になる駐車場を予定しているところですが、そちらにつきまして971.32平米。合わせまして2,407.83平米、4筆を貸し付けるものでございます。

貸付けの相手方は箕輪町大字中箕輪10589番地14、株式会社煌めき代表取締役清水青一郎さんでございます。

貸付けの期間につきましては、建築等の準備期間の21か月と、それから運営期間の30年であり、2057年3月31日までの31年9か月となっております。

2ページの資料をご覧ください。

5月19日に行いました公募型プロポーザルの募集要項の抜粋と、審査結果でございます。こちらにつきましては、本物それから本物等につきましては町のホームページに現在も掲載中でございます。あくまで抜粋で資料用として、抜粋でつくってございます。募集要項では障害の種別、程度、性別等の差がなく利用できて、かつ町民が優先入居できる施設を整備し運営する事業所に対して、公有地を無償で貸し付けることとして募集をしたところでございます。

3ページへお進みください。

1事業所のみの、資料3ページのほうですね、お進みください。下段になりますけれども、1事業者のみの応募でございましたが、9項目について審査を行いまして45点満点中29.5点ということで、本会議の質問でもございましたが、平均1点、2点、3点、4点、5点という評価でございますので、3点掛ける9、27点が基準値でございますので、それを上回ったという形で適性として業者を決定したところでございます。

資料の4ページへお進みください。

建物などの配置図案でございます。用地につきましてはちょっとモノクロ等で重なって見にくい部分もございますが、建物の建っている何と申しましょうか、左斜め上のところに物置を建てるような予定になっておりますので、物置のところに先ほど言った一部の面積6.6平米とか、上のほうの2階建ての住宅があったところの41.82平米とか、そういったところも重なってくるということで、分筆をするのにはやはり測量したり、登記をしたりということで大変でございますので、その中のおおむねの面積ということで、こちらのほうにはそういうものを記載いたしました。こちらのほうの建物の建てるほうにつきましては、この敷地について建物を建ててもいいということにはしてございますが、三角形

の駐車場のほうにつきましては、同番11のほうですね、980の11のほうにつきましては、現状のまま基本的には使っていただいて、建物は基本的には原則つくらないというような仮契約を結んでいるところでございます。

建物の規模としましては、延床面積672.87平米の軽量鉄骨造り2階建ての提案ということで既に皆様にお示ししたとおりでございますし、1階につきましては重度の障害者用として14部屋とショートステイ2部屋。1部屋あたりが大体10平米というふうに伺っておりますので、2.5×4だったかな、ぐらいの、10平米という中にベッドと、それからたんすというか収納スペースがあるというような形の中で、好きな方はテレビを置かれたりとか、多分そういうこともするんでしょうけど、10平米ぐらいの部屋が、それだけのものが用意されます。

本会議等でも質問、昨日の一般質問でも出ましたが、1階につきましては重度の方というような形ですので、スプリンクラー等の規定にあった消防設備を整えるというようなプロポーザルの中での提案のお話をいただいております。

2階につきましては、軽度のご自分で動ける方、障害の軽度というのは区分認定1から3というような形の方なんですけど、その方々用には6部屋、同じぐらいの面積の部屋なんですけども、それを6部屋用意し、1階に14、2階に6、それから1階にショートステイとしてお試し、何かの緊急時のときの部屋を合わせまして、全22部屋のとても大規模な障害者のグループホームとなる予定でございます。

建物の南側につきましては、先ほどのとおりでございますが、駐車場用地として貸与いたしまして、のり面や周辺の植樹等は現状のままというふうに現在なっております。971のうち660ということで、平場の部分については意外と狭いのかなというふうには思うんですけども、25台程度の従業員や来客者用として駐車場を整備する予定でございます。

無償貸与がここで決定され、本会議で決定されますと、煌めき様にて設計業務、それから建築確認申請、それから工事着手に向けたハード面の動き出しと、それからソフト面と申しましょうか、グループホームの運営事業者としてはまだ認められておりませんので、これを基に県のほうへ指定申請、それから働いていただける方の従業員の募集など、ソフト面の準備を具体的に進めていくというような手順になってございます。

開所見込みににつきましては令和9年、21か月後ですかね、22か月後ですか。その令和9年4月1日の予定でございます。

以上で細部説明を終わります。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 細部説明が終わりましたので、これより質疑に入ります。質疑ございますか。南委員

○9番 南委員 私もまさかと思っていたんですけど、これエレベーターない。

○小池福祉課長 エレベーターはないです。民間の事業所さんです。

○9番 南委員 そうなんですか。当然あると思っていたんで、ちょっとびっくりしたんですけど。今、よくよく見たらエレベーターないのかなと思って、大丈夫なんですか。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 課長

○小池福祉課長 こちらの建物につきましては、あくまで民間の提案ということでございまして、そして民間の提案の中でもエレベーターをつけるというようなご提案はございませんでした。理由としましては、先ほど申し上げたように軽度の方が2階、重度の方が1階ということで、1階と2階のそこでの行き来というのは、お世話人さんが1階のところの事務所にあるというようなご判断かと思います。ですので、町のほうからエレベーターがあるや、なしやということについて言及はしてございません。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 南委員

○9番 南委員 それは、町からアドバイスっていいことはないんですか。例えば、そのとき軽度でも、ちょっとけがしてとか、度合いが進むことは考えられないんですかね。あとは、いろいろ物を運んだりとかするときに、例えば買物してきて自分で2階に上がる、しんどいときとかもあるかと思う。あとは施設の方の物を持って、重たい物を持って2階に移動することとか。アドバイスができるのかどうか。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 課長

○小池福祉課長 町のほうから建物についてのアドバイスということではございません。それから基本的に、このユニットの考え方については、重度のところは1ユニット、すいません、図面でいいますと右側と左側に分かれており、真ん中のところに事業所の方の職員スペースを設けるということで。これ事業所で軽度と重度が混在するということはあまり考えていないというか、この制度というか仕組みの中でずっとそこでいらっしゃるわけですので。先ほどの南議員さんの中で、軽度の方が途中でけがをして重くなったとかってことはあり得るのかもしれませんが、けれども、軽度の方が重度になって、そこにずっといるというような状況は、想定はされていないと思いますので、町としてはこちらについて提案のあったとおりで、特にアドバイスとかそういったところはなく、制度的には問題ないというふうに判断をしております。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 南委員

○9番 南委員 例えば、そこに2階にいて重度に、重度というか軽度のランクがあると思いますけど、下に移りたいってなったときには、そういうことも可能なんですかね。これは、この部屋を借りたら、ずっとそこの何〇何号の人っていう形なんですか。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ちょっと待ってね。今回、今、審査するのは土地の貸付けに。ちょっと、それ多分、協議会でやったほうがいいと思う。内容については、土地の貸付けと、相手方はこれもう確定、相手方は審査対象じゃないですよ。

○小池福祉課長 相手方は審査対象ではございません。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 なので、貸付けをするかしないかっていう内容になりますので。南さん、協議会のほうでお願いします。小出嶋委員

○14番 小出嶋委員 ちょっと10ぐらい、ちょっと聞きたいと思いますけど。最初に、今回無償で貸し付けるとした理由と、その根拠はどういうことなのかっていうのが一つと。

それから、今の運営面のところでも出てきていましたけど、今回のこの業者を選定した、1社だけが応募だったということなんですけども、選定した中で運営がやっていけるのかっていう、そういうチェックはどのようにしたのかっていうことが二つ目。三つ目が、今後30年っていう、またその後、更新を50年ごとにするっていう、この期間の根拠について。入所の需要については一般質問の中で、ちょっと聞かせていただきましたけれども、またこの後、これができる後、町がどのように関わるのかっていうことについて、そこだけちょっとお伺いをいたします。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 課長

○小池福祉課長 すいません、ちょっと私も今、聞き漏らしがあっってしまったはいけません、まず、無償の貸付けについてというところ、それから30年の貸与条件につきまして、逆に言いますと前回の令和3年のときの募集要項と全く一緒でございます。ですので、そのときにもう既に地元議会の皆様にもお話があったかと思うんですけども、そういった形で進めるというところの要件については全く今回、変えてございませんので、そういった方向で進めさせて、募集をさせていただいたところでございます。

あと、1社だけからの応募、運営がやっていけるかどうかのチェックというところでございますけれども。これも募集要件の中にございまして、財務状況の確認をさせていただき、ここを3年間等も赤字ではないというような財務諸表等のチェックもさせていただいたというような形でございます。

また、運営がやっていけるかどうかというのは、実際に中に入って入居が固定、入居してサービスが提供されるかどうかというところなんです、議会の一般質問等の中でもお答えしましたが、上伊那の中で今75グループホーム、圏域の中で75グループホームがあるうちの4月現在の上伊那圏域障害者支援センターきらりあの提供の情報によりますが、定員462名に対して431名の入居者、つまり93.3%ぐらいの方ということで、31部屋しか空いてないというような状況もあり、かなりグループホームを求めている方というか、相対のニーズはもちろんある中でということでございます。そして箕輪町に株式会社としてつくられたソーシャルインクルーという、木ノ下の四つ角にある20床の重度のところにつきましては、男性10、女性10の20床につきましては満床ということもございまして、社協の行ったアンケートの結果では、すぐには分からないというようなご意見もございますが、実際、蓋を開けてみると入りたいという方や、箕輪にできれば戻ってきたいというようなニーズもあろうかと思っておりますので、そういった面もありましてグループホームは一刻も早く町のほうで誘致をしたいといったところから、このような募集を行い、1社様からご応募があつて、平均点を越えたという形の中から選定をしたということでございます。

最後の、町がどのように関わるかというようなところでございますけれども、これも昨日の一般質問の中でお答えをさせていただきましたけれども、すいません、何と言ったかな、定期的に地域連携推進会議というのを施設のほうで持たれるというふうに提案の書類、それから説明の中でも伺っております。地域連携推進会議というのは、その施設の利用

者本人、それから利用者のご家族、それから地域の関係者、それから役場も呼ばれますので、そういったものの中に入りまして実情や意見を言う、聞くという話合いの場を定期的に設けられますので、その中で中の入居者等の状況につきましても把握に努めていくと、そんなようなことで考えております。

よろしいでしょうか、以上です。

○14番 小出嶋委員 もう一つ、その期間。

○小池福祉課長 すいません、30年につきましての期間につきましても、前回の募集要項と変わっておりません。30年の募集、それから30年間、その後の自動更新20年というような、この書きっぷりというか募集も、前回のお話と全く変わってございません。ただ、仮の契約書の中で自動更新ということではなく、弁護士等ともご相談をして30年をひと区切りとして、甲乙異常がないというか認められれば、そのときにまた20年間を最大延長するというような旨で契約書のほうは取り交わしをしておるところでございます。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 小出嶋委員

○14番 小出嶋委員 もう一つ、さっきちょっと少し説明があったんですけど、これユニットの関係ですけど、この資料6ページの1階の左のほうと右のほうで、1ユニット、2ユニットと。それで2階の部分は一つですか。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 課長

○小池福祉課長 はい。お見込みのとおりでございます。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 よろしいですか。ほかにございますか。小口委員。

○8番 小口委員 利用者さんなんですけれども、精神とか知的とか身体とか、対象の方は何ていうんでしょう、区切らないっていうか、対象だと思うんですが。そのユニットはそれぞれなのか、まとめてなのかっていうのをお聞きしたいです。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 課長

○小池福祉課長 今の障害の種類によりというようにところのご質問かと思えます。おっしゃるとおりでございます、もう実際にこれは運営者のほうで知的、一般的にはすいません、知的と例えば静かなところを好む精神と、ちょっと、すいませんね、騒いしまう知的と、なかなか相受け入れられないというような部分もあるんですけれども、結局のところその取り合わせというか、人となりというか、つながりによって同じリビング、大きいリビングの中で個室でこうやって住むわけですので、人が合うか合わないかっていうようなところが主になってくるというようにところは提案の中でもいただきました。ですので、その3種類について全てを受け入れていただき、前回の募集要項では男女混合とするというところだったんですが、こちらにつきましても今回の募集要項のところでは男女の性差なくというような形にしておりますので、その辺につきましても事業者様のほうのご判断の中で、いろんなものについて差がなく受入れをしていただけるというような、そんなご提案をいただいて、こちらのほうでは評価をさせていただいておるところでございます。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 よろしいでしょうか。

(「なし」の声あり)

○10番 寺平福祉文教常任委員長 それでは質疑を終了し、討論に入ります。討論ございますか。

(「なし」の声あり)

○10番 寺平福祉文教常任委員長 討論なしですね。討論なしと認めます。

それでは、採決に入ります。

議案第10号 財産の無償貸付けについて、原案のとおり可決すべきことにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ご異議なしと認め可決すべきものと決しましたので、その旨を本会議で報告いたします。

【福祉課 終了】

【⑥学校教育課】

○10番 寺平福祉文教常任委員長 会議を再開いたします。

ただいまより、学校教育課に係る審査を行いたいと思います。

まず、議案第3号 令和7年度箕輪町一般会計補正予算（第2号）学校教育課に係る部分を議題といたします。細部説明を求めます。課長。

○田中学校教育課長 それでは、議案第3号 令和7年度箕輪町一般会計補正予算（第2号）学校教育課に係る部分について説明させていただきます。

補正予算書、一般21ページをお願いいたします。

10款の小学校費で、小学校給食費1015の14工事請負費237万6,000円の補正をお願いするものでございます。場所は、午前中も確認していただきました、箕輪東小学校の給食室の空調の取替工事という形になっております。

説明については以上でございます。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 細部説明が終わりましたので、これより質疑に入ります。質疑ございますか。南委員

○9番 南委員 今日、視察に行かせていただきまして、状況を見て、ちょっと不十分だと感じたんですね。場所も給食室の真ん中にある空調で、ダクトを使っているけれど端まで届かない、気温差が大分あるっていうことも分かりました。あとは、食品衛生法なのか、基準で25℃に保たなきゃいけないっていうところが30℃になる日が結構あるっていうことを聞いたので、ちょっとこの工事じゃ足りないんじゃないかと。せっかく直すんだったら原状復帰じゃなくて、もう少し予算を取って真ん中に持ってくるとか、もうちょっと全体的にちゃんと、冬も寒いっておっしゃっていたんで、行き渡るような方法は再検討で

きないですかね。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 課長

○田中学校教育課長 ご覧いただいたところであれですけれども、給食室、調理室内フードがあったりいたしますし、その下には回転釜があったり、天井が十分でなかったりする場所がありまして、ちょっと設置についても業者さんとは相談したんですけれども、なかなか場所が限られているというところがございます。なので、能力的には大きなものを設置させていただいておりますので、同じものをということで設置をしていきたいというふうに考えております。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 小出嶋委員

○14番 小出嶋委員 この空調、今までも二つあったわけだけれど、それに暑いときは扇風機っていうか、そういうのも加えて使っているわけですか。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 課長

○田中学校教育課長 ちょっと確認はしていませんけれども、空気の入替えですとか、あとご覧いただいたとおりノズルがついておりましたので、それを利用しながら、というふうにしております。あと、保健所の衛生指導等も定期的には入るんですけれども、特に私の知る範囲では指摘事項としていただいている覚えはありませんので、平成22年に設置して以来、ああいう形状でやってきておりますので、これで何とかしていただけたらというふうに思います。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 南委員

○9番 南委員 私が聞き取ったところだと、やっぱり冬は寒いので、あの空調では足りずにブルー何とかっていう熱線で、それを足元に持ってきてやっているっていうことでした。そこも問題だし、やっぱり25℃を基準で保ててないっていうのは問題じゃないかなと思うんですけれど、もうちょっと、この工事じゃ足りないと思います。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 課長

○田中学校教育課長 いずれにしても、冬場はブルーヒーターを使っているっていうことであればなんですけど、いずれにしても設置場所の制約がございますので、現状でしか致し方ないのかなというふうに思います。

以上です。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 白鳥委員

○4番 白鳥委員 東小学校の規模でということになるとあれしか、今現状では難しいということなんですけども。ほかの小学校、中学校の給食室の空調に関してはどういうふうにはしているのか、ちょっとそこをお聞きしたいんですけども。設備っていうか、空調の設備っていうのはどういうふうにはしているのか。エアコン方式にしているのかとか、そういうことで、ちょっと分かればあれなんですけども。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 課長

○田中学校教育課長 新しくつくってきている給食室についてはエアコンも設置しており

ますし、足りないってところについては増設とかもしている状況でございます。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 白鳥委員

○4番 白鳥委員 それは今の東小の給食室では、現状的には無理っていう判断でよろしいのか。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 課長

○田中学校教育課長 業者さんと相談したところでは、ちょっとなかなか難しいかなという判断をいただいておりますので、原状の復帰っていうことを当面、考えざるを得ないのかなというふうに思います。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 南委員

○9番 南委員 当面、考えなければいけないとなると、今回直した後は、その状況が長く続いてしまうということで。調理師さんも高齢化が進んでいたり、頼む方も高齢になる場合が多いということ。あと調理場はやっぱり普通より、煮炊きするので暑くなる。今ちょっと見ると、給食調理現場では温度湿度が高い苛酷な環境の中で給食を調理している。学校給食衛生管理基準や厚生労働省の定める大量調理施設衛生管理マニュアルでは、調理場は換気を行い、温度を25℃以下、湿度80%以下を保つように努めることとされているところを守れてないと思うんですけど、その点はいかがですか。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 課長

○田中学校教育課長 すいません、ちょっとそこまでの確認はちょっとしておりません。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ちょっと関連して、基準が定められているということで、その基準をクリアしているかどうかっていうのは、一応どのように確認、確認はしている。課長

○田中学校教育課長 定期的に衛生指導というか、明日も実は見に来るんですけども、そういった中で確認をしておりますけれども、特に私の知っている範囲では、そういった基準を満たしていないっていう話は聞いておりません。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 この25℃っていうのは、ちょっと私も今、初耳であれだったんですけど。今回、設備を導入することによって基準は満たす見込みであるのかが一点と。あともう一つは、検査って誰、どなたが検査というか基準、検査はどういった形でチェックしているのかっていうのは。ちょっと、取りあえず見込み、今回の改修でいわゆる政府の定める基準は一応、基準はクリアする見込みで改修するということでよろしいですか。課長

○田中学校教育課長 同規模のものを設置していきますので、クリアできると思っております。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 南委員

○9番 南委員 原状復帰するということで、原状に戻るとということで、今まで保てていないのに、その予測でできると思いますというのは違うんじゃないでしょうか。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 課長

○田中学校教育課長 保ててないかどうかっていうこと、ちょっと今この場ですぐにはあれなんで。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 南委員

○9番 南委員 多分、調べてないし、今答えられないと思う、分からないっていうのが答えだと思うので、直したら保てると思いますっていうのは違うと思うので。ちょっと、しっかりその辺クリアになるような調査と再設計をお願いしたいと思います。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 課長

○田中学校教育課長 学校のほうに、その基準のクリア状況を今、確認させていただけないでしょうか。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 はい。いいですよ。じゃあ、暫時休憩。ちょっと待って、小出嶋委員

○14番 小出嶋委員 南さんが言う、その25℃以下になってないっていうのは、調理員がそのように言っているっていう。

○9番 南委員 先ほどの説明でいらしていただいた女性から聞いた話です。

○14番 小出嶋委員 記録を取っているってことなのかい。

○9番 南委員 その人が、いや、でも25℃を保ててないんですよって。だから、暑くないですかって、こっちの端っこの人は大丈夫っていう話をそこで聞き取っていたら、いや、実は（聴取不能）でも25℃を保ててない、30℃になっちゃうっていうお話でした。

○15番 入杉福祉文教常任委員会議長 ちょっといいですか。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 はい、議長

○15番 入杉福祉文教常任委員会議長 いろいろ南さん、おっしゃっているんですけど、東小学校だけがね、そういう苛酷な状況の中にあってっていうんであればね、それは考えなきゃいけないことかもしれないですけど。似たような状況ですよっていうことでね、ほかの学校とも比較して。であれば、今さらここで設計を変更して、もう待てないですよ、これ。

○田中学校教育課長 そうです、ぎりぎり。

○15番 入杉福祉文教常任委員会議長 ぎりぎりですよ。そのことのほうが、もっと私は問題があると思うんですよ。これから設計を変更して、また機種を変えて、また議会の承諾を求めてやってやったら、もう夏は過ぎますよね。今、現状を変えなきゃいけないっていうときに、そんなこと言っている場合じゃないと私は思います。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 どうしますか、学校に問い合わせる。

○9番 南委員 もし聞かれるなら、先ほどの女性に今の状況と私が聞いたこと、（聴取不能）。

○14番 小出嶋委員 栄養士。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 事実関係の確認を要するようなので、暫時休憩にいたします。

○15番 入杉福祉文教常任委員会議長 それは今、壊れた状態と言っているだけなのか。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 だから、そう、壊れた状態なのか、稼働した状態なのか。

○15番 入杉福祉文教常任委員会議長 きちっと稼働していても、そうなのか。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 それ、温度を見て言っているのかって、ちょっと確認。

○14番 小出嶋委員 25℃っていうのは、食品衛生のほうの関係じゃなくて、いわゆる労働のほうの。

○9番 南委員 労働省の、労働組合の、分かんない。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 法令、それ。ちょっと今、一応、暫時休憩。

(休憩)

○10番 寺平福祉文教常任委員長 それでは、会議を再開します。

では、課長、よろしくお願いします。

○田中学校教育課長 学校のほうに確認しましたところ、先ほどの25℃以下、80%未満っていうのはマニュアルの努力義務であるということで、夏場は超えることはあるということでございます。そのことに関して、保健所からの指摘を受けたことはないというお話でした。

以上です。

○14番 小出嶋委員 25℃を超えているっていうのは、記帳してあっても、それに対してすぐ改善するとかいう、そういう指摘はないっていうことね。

○田中学校教育課長 ない、はい。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 議長

○15番 入杉福祉文教常任委員会議長 先ほどの質問のもう一つ、東小と同レベルの環境にある給食室、調理室っていうのは、ほかにもあるんですよね。東小だけが苛酷だということではないってことです。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 南委員

○9番 南委員 ほかの学校がないから、みんな我慢しろという論理は、私は違うと思って。逆に、だったらそれが分かった機会にみんなに導入してあげるべきで、今これだけ、こどもまんなかとか言っている中で、教育費にかけていいはずなので。じゃあ、保ててない、そんな苛酷な状況でみんな我慢しているから我慢しろというのは、ちょっと時代にも反しているし、そっちのほうをほかの学校も同時にさらに今、調査して見直して改善して、そういうところに補正を持ってくるべきだと私は思います。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ほかにございますか。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 小出嶋委員

○14番 小出嶋委員 今、いろいろ出ていますけれども、この空調を今回直す、壊れちゃったということで直す、直すっていうか付け替えるっていうことなんですけども。今、

ここでこれを取りやめて、二つ三つ、つけるということを今、今回のこの補正の中では、ちょっと難しいんじゃないかと思いますので、取りあえずはこれをつけて、あと学校教育課で調査をして、来年の予算に反映できるような、いわゆる調査をして必要かどうかというものも含めて調査をして、その予算づけをするなりってということを考えていったほうがいいんじゃないかと私は思います。

○15番 入杉福祉文教常任委員会議長 これからの課題。この予算をどうするかって（聴取不能）。

○9番 南委員 でも、これを言わないと、私がこの話をしなければ、こういった議論にならなかったと思う。

○15番 入杉福祉文教常任委員会議長 議論にはなっていますが、決めることは決まなきゃいけない。

○9番 南委員 分かりますけど、でもここで。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ちょっと、課長から答弁。今のヒアリングをしたほうがいいんじゃないかならうかという。

○田中学校教育課長 今回やらないと、夏休みに間に合いませんので、これはこれで原状復帰ということで設置させていただいて。また、ほかの給食調理室については別途、状況を確認するというので、必要に応じて対応させていただきたいというふうに思います。

以上です。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 白鳥委員

○4番 白鳥委員 現状については、これ把握していく必要が非常にあると思います。特に今年から熱中症対策について、非常に厳しくなっているっていうのが、企業だけでなく多分、そういう学校現場でも関わってくると思いますんで。特に夏場の暑い、一番暑いときは多分、夏休みにかかるってあれですけども。ある程度のやっぱ温度と湿度を保たなきゃいけないっていうのは、これから国の基準でも今回出ているんで。それは労働基準監督の関係になるんですけども、学校でも多分準じてくる、そういう労働環境になってくると思いますんで、ぜひともちょっと今後、夏場しっかりデータを取ってもらって、統計を出してもらって、それをどうするかっていうことを、改善する方向にするにはどうしたらいいかってことはまた検討してもらって、少しでもそこで働く人たちが環境のいい中で仕事していただくっていうのは非常に大事なことだと思いますんで、まずは実態について、全ての小学校というか同規模の小学校でも、中学を含めて本当だったら全部やっただければありがたいと思いますんで。そのちゃんとデータを出していただいて、どうするかっていうのをまた検討していくことが必要じゃないかと思いますんで。また、その思いもまた課の中で検討していただければというふうに思います。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 課長

○田中学校教育課長 給食調理室についても確認、この夏、確認していきたいというふうに思います。

以上です。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ほかにございますか。小口委員

○8番 小口委員 課長さんへの質問ではないんですが、この場合、一旦は認めるけれども、調査をして、さらなる対応をしてくださってという附帯決議みたいな、そういうものってというのは必要ないんでしょうか。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ちょっと協議会に切り替えます。（録音中断）

○10番 寺平福祉文教常任委員長 会議を再開します。

質疑ございますか。白鳥委員

○4番 白鳥委員 夏休みまでに、この工事を終えなければいけないということで、今回はこの工事に対しては、もうやらなきゃいけないということは確認できたと思います。

○15番 入杉福祉文教常任委員会議長 質疑って言ったでしょう。

○4番 白鳥委員 あっ、質疑って言った。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 今、質疑だよ。意見も言っていていいけど、質疑の中で。ちょっといいや、ちょっと整理させて。（録音中断）

○10番 寺平福祉文教常任委員長 会議を再開します。白鳥委員

○4番 白鳥委員 この設備の改修によってどうなるかっていうのは、きちっと現状を把握していただいて、ほかの小学校に対してもちょっと調査をすることを私は求めたいと思います。これが夏休みの期間に工事をやるということでよろしい、取りあえず確認させていただきたいんですけど、よろしいですかね。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 課長

○田中学校教育課長 夏休み期間に実施する予定でございます。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 白鳥委員

○4番 白鳥委員 夏休み期間中、工事終了後、多分2学期からの正式な運用開始になると思いますんで、まだちょっと暑い時期でもありますんで、室内温度とかそういうことも調査していただいて、効果がどうだったかということもきちんと公表していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 課長

○田中学校教育課長 確認をして、データのほうを調査したいと思います。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 白鳥委員

○4番 白鳥委員 ぜひともお願いしたいと思います。あわせて、ほかの小・中学校でできるのであれば併せて調査をしていただきたいと思いますので、その辺、要望いたします。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 答弁、今の要望に対して。課長

○田中学校教育課長 調理室、調理員と相談して確認してみたいと思います。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 よろしいですか。ほかにございますか。

（「なし」の声あり）

○10番 寺平福祉文教常任委員長 それでは、質疑を閉じます。

続いて討論に入ります。討論ございますか。

(「なし」の声あり)

○10番 寺平福祉文教常任委員長 討論なしと認めます。

それでは、採決に入ります。

議案第3号 令和7年度箕輪町一般会計補正予算(第2号)学校教育課に係る部分を原案どおり決することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ご異議なしと認め、原案どおり決することに決定いたしましたので、その旨を本会議で報告いたします。

次に、議案第9号 財産の取得について、を議題といたします。細部説明を求めます。課長。

○田中学校教育課長 本会議の細部説明と重複しますが、よろしくお願いします。

それでは、議案第9号 財産の取得について説明いたします。

提案理由につきましては、本会議で町長が申し上げたとおりでございます。

取得する財産は、学習者用コンピュータでございます。

契約方法は随意契約で、9,789万7,800円の取得価格になります。

取得の相手方、松本市大字和田4010番10、キッセイコムテック株式会社執行役員、公共・医療ソリューション事業部長深石文夫さんでございます。

次のページをご覧くださいと思います。

事業名は、令和7年度箕輪町小中学校情報機器更新業務でございます。

事業箇所は、町内小中学校。

事業の完成期限は、令和8年3月31日まででございます。

事業概要は、令和7年5月1日現在の児童生徒分の端末及び予備機を整備するものでございます。

事業の目的は、令和2年度に整備された1人1台端末の更新を行うため、委託契約を結ぶものです。

契約の相手方につきましては、国のGIGAスクール構想における児童生徒1人1台端末の更新を行うに当たっては、原則として共同調達により行うこととなっており、そのため長野県市町村自治振興組合が実施したプロポーザルによる業者選定において決定したものと町との間で随意契約により契約するものでございます。

財源につきましては、県補助金として6,526万5,000円、一般財源として3,263万2,800円となります。

なお、一般財源につきましては地方交付税により財政措置される予定でございます。

説明については以上でございます。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 細部説明が終わりましたので質疑に入ります。質疑

はいふございますか。南委員

○9番 南委員 これ、確か本会議で中野さんが質問していたと思うんですけど、更新については何か調べられましたか、その後。更新、次はいつかっていう。更新時期について、いつですかって、確か分かりませんっておっしゃっていたと思うんですけど。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 課長

○田中学校教育課長 耐用年数が5年っていうところで、5年後にどういった環境になっているかっていうところかなというふうに思っております。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 小出嶋委員

○14番 小出嶋委員 今回のこれは共同調達ということのようですねけれども、長野県内では幾つの町村で今回のこの共同調達をするような状況になっているのかっていうことが一つと。それから、この交付税措置ってというのはどのくらいの額が措置されるものかということについて、ちょっとお伺いします。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 課長

○田中学校教育課長 共同調達に参加する単位が市町村のみでなくて、組合立とか、そういった学校も入ってきたり、県も入っています。まだそういった団体も含めて67市町村、組合等という形になります。

あと、交付税につきましては、ちょっと現時点というかあれですけども、教育費、小・中学校費の単位として1人1台端末の更新に係る経費については、児童数において措置されると、児童生徒数を基準として措置されるものというふうに見込んでおります。

以上です。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 小出嶋委員

○14番 小出嶋委員 その共同調達っていうのは今回、随契をするキッセイコムテックっていう会社のこれと同じ機種を、この67市町村が、その組合が購入するという、同じものを購入するっていうことですか。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 課長

○田中学校教育課長 はい、そのとおりでございます。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 南委員

○9番 南委員 これ、前回は2,040台で、今回が増えているんですけど、多分、児童生徒数は減っているはずなんですけど、その増えている理由は何に当たるのか。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 課長

○田中学校教育課長 前回の対象は、児童生徒数の3分の2が補助の基本となっておりまして、その他残りの3分の1については地方財政措置がされるという形になっておりましたけれども、今回は全児童生徒数と予備機、お手元の資料に書かせていただいた割合でございますけれども、それが上乗せされるということでありまして、補助のスキームが変わっているということでございます。

以上です。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ほかにございますか。小口委員

○8番 小口委員 先ほど、人数に応じて交付税の対象になるっていうふうにお聞きしたので、予備機の分はどのようなんでしょうかってお聞きしようと思ったんですが、それもまとめて交付税対象ということになりますでしょうか。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 課長

○田中学校教育課長 ちょっと定かでないところなんですけども、交付税については毎年、児童生徒数を単位に交付されるものでありますし、今回の整備に当たっての補助金については今年度限りっていう形になりますので、毎年、児童生徒数に応じて交付されるものというふうに考えております。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 小口委員

○8番 小口委員 ちょっと、今のお返事でしっくりこなかったんですが、児童生徒数に応じてというのは実児童生徒数なのか、その予備機の台も含めてなのかということをお聞きしたいんですが。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 課長

○田中学校教育課長 ちょっとそこは分からないんですけど、交付税については毎年5月1日現在の児童生徒数でカウントされますので、実児童生徒数という形。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 南委員

○9番 南委員 つまり、今、実児童生徒数が1,843人だから、その分は交付税で賄える。その差があるわけですよ。だから予備機は一般会計とかから賄うっていうことになるっていう話ですよ。だから、2,119台が交付税じゃないですよ、措置されないですよ。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 276台、どうなるかという話だよ。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 1回、協議会に切り替えます、むしろ。今、ちょっと会議を中断し、協議会に切り替えます。（録音中断）

○10番 寺平福祉文教常任委員長 会議を再開します。引き続き、質疑ございますか。白鳥委員

○4番 白鳥委員 今回、予備機の台数の15%で計算されていますけれども、この15%の算出根拠を教えてくださいんですけども。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 課長

○田中学校教育課長 補助の要件というか条件が、上限が15%という設定がされておりまして、それを活用しているということでございます。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 白鳥委員

○4番 白鳥委員 この15%は各市町村とか、その組合立の学校の単位で決まってきて、一律15%っていうことだけではないっていうことですかね、共同調達した中には。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 課長

○田中学校教育課長 各自治体というか、共同調達の主体が判断している部分だというふうに考えます。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ほかにございますか。よろしいですかね。

(「なし」の声あり)

○10番 寺平福祉文教常任委員長 それでは、質疑を打ち切ります。

引き続き討論に入ります。討論ございますか。

(「なし」の声あり)

○10番 寺平福祉文教常任委員長 討論なしと認めます。

では、採決に入ります。

議案第9号 財産の取得について、原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ご異議なしと認め、原案どおり可決するものと決し、その旨を本会議で報告いたします。

【学校教育課 終了】

午後5時 閉会

午前9時 開会

【⑦請願・陳情】

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ただいまの出席委員は7名です。それでは、議事に入りたいと思います。

請願受理番号1番、請願項目、さらなる少人数学級推進と教員増のための教育予算確保、義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充を求める意見書採択の請願について、を議題といたします。請願内容を事務局から読み上げていただきます。よろしくお願いします。次長。

○宮尾議会事務局次長 朗読

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ただいま、紹介議員の小出嶋文雄委員が委員会室におりますので説明を求めます。

○14番 小出嶋委員 それでは、紹介議員ということで、今の朗読をしていただいた内容が全てでありますけれども、補足で少し説明をさせていただきたいと思います。請願理由については、そこにあるとおりであります。

請願事項で、いわゆる1の(1)のさらなる少人数学級の推進っていうことですが、今年度から小学校の学級定員が35人になったんですけれども、まだそこにあるように中学校はまだ40人っていうことで、さらなる定員の引下げを望んでいるということでもあります。これにつきましては少人数学級で今までの担ってきたことによって、今までの子どもたちの学級では、いわゆる発言や活躍の機会が増えたとか、落ち着いた環境で学べるようになったとか、問題行動が減った等の教育効果が現れているということでもありますので、これからはさらなる少人数学級を求めていくということのようでもあります。

それから、複式学級の学級定員の引下げでありますけれども、箕輪には複式学級はないわけですが、これは長野県全体っていうか、も含めて複式学級の定員を引き下げて

いきたいということでありまして。複式学級の国の基準というのは16名以下が国の基準でありまして、県の独自の基準っていうのは8名以下というようになっているわけですけど、引き下げられれば、さらに正規職員としての教員が確保できるということでありまして。現在、複式解消加配っていったって県独自で設置している人員を別の形で複式学級対象ではない学校に配置できる可能性も出てくるということでもあります。そういうことで、うちの町には複式学級ないですけども、県全体のことも含めて請願をするということのようでもあります。

教員の基礎定数の算出に用いる係数の改善ってありまして、この係数っていうのを標準学級数に、いわゆる学級数のあれを決めるときに標準学級数に、この定数っていうのを掛けて定数を算出するということになっているようですけれども、それが今の定数をもう少し、この率をもう少し増やして、1.2倍くらいにしてほしいということのようでもあります。

請願事項の2にありますけれども、これは機会均等、教育の機会均等とその水準の維持向上のために必要不可欠な義務教育国庫負担制度っていうことで、これ三位一体の改革のときに今まで2分の1だったものを、国の負担割合2分の1だったのを3分の1になってしまったということでもあります。それを元の負担率で2分の1に復元をしてほしいということです。義務教育ということで国の負担が当然ということでもありますけれども、それを元の率に戻していただきたいということの内容ということでもあります。よろしくお願いいたします。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ただいま紹介委員の説明が終わりましたので、これより質疑に入ります。質疑、意見ございますでしょうか。南委員

○9番 南委員 質問なんですけれど、質問というか、ちょっと分からないので確認っていうか。長野県、今でも公立教員の不足が24年10月現在、75人欠員で過去最多ということなんですよね。今でも教員数足りてないのに学級の少人数化すると、もっと先生必要だと思うんですけれど、そこを、国庫負担金を大きくして、教員の定数をさらに増やしてほしいっていうことでいいんですよね。

○14番 小出嶋委員 基本的な部分、全体の部分は今、教員の数、今言ったように足りない部分もあるんですけれども、それを成り手不足っていう部分もあって、それを給与を上げてとか、働き方改革をしながら、成り手を増やしていくというのが、まずあるんですけれども。そのためには各自治体の予算が苦しい中で、国庫負担を元の率に戻してもらってということが一つあるということです。それとか、あと最初のほうの部分は、財源的にはお金が要るということになるわけですけど、この(1)、(2)、(3)の予算が増えないと、なかなかできないっていうことなんですけど、それを国の負担でできるようっていうことも含めた内容ということです。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 南委員

○9番 南委員 分かりました。ただ、何か今現在でも教員足りてないっていうのと、だから少人数っていうのが反するというか。というか今の学級人数でも教員数が足りてないんで、だから、まずは今の人数で足りるようにするのが先決な感じがして、さらにまた上

の課題を言っているのが、何か結構厳しいのかな。まずは、今の現状で教員を確保するのが先なのかな。それがそろってさらに本当はもっと少人数っていう、何か2段階で行ったほうが良いような気がして。結構ハードなお願いなのかなと思うんですけど、私はです。

○14番 小出嶋委員 そういうこと、このいわゆる1のほうのね、子どもの教育予算を確保することっていう、この部分があるんですけど。そのためには、いわゆる国の責任で財源をつけろということで、各県とか各地方の県とか市町村に、その負担を負わせるのではなくて、国に増額予算を要求していくという、この内容ということです。

○9番 南委員 1番が（聴取不能）。

○14番 小出嶋委員 そうですね、ええ。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ほかにございますか。小口委員

○8番 小口委員 箕輪町にはないということだったんですが、複式学級のことをちょっと教えていただきたいんですが。どういうものでしょうか。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 小出嶋委員

○14番 小出嶋委員 人数がだんだん減ってきてしまって、これはさっき説明しましたが8人以下に一つのクラス、学年が8人以下になっちゃった場合、ほかの学年もそうなんですけど、ほかの学年と合わせて一つの学級としてやっていくという、そういう複式ということです。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 よろしいですか。ほかにございますか。

例えば、先ほど南委員からもご指摘あったんですけど、まず教員の不足を解消するのが先決だということもあるので。例えば、これ意見書は議会として出すので、次の段階で、別にそれ項目、追加してもいいわけ。ちょっと文章を考えて、成り手不足解消に取り組むことって追記するとか、まず定員を満たすことで、その上でその要は、その上でこの、満たした上で今回の請願に賛成するか反対するかって、そこは十分可能。小出嶋委員

○14番 小出嶋委員 今言ったように、少人数学級にする場合は先生が必要だっていうことになるわけですけども、それを解消する、やっぱり根本的には成り手不足っていう部分で先生に成り手がいないという、それで不足してきているっていうことなんですけど。それには待遇の改善とか、そういうことも含めてやっていかなきゃいけないっていうことで、次の請願のところでも出てくるんだけど、そういうことも併せてやっていくということをお願いするっていうことです。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 南委員

○9番 南委員 趣旨は分かるんですけど、何か二つに分けたほうが良いような感じもして、何か、だから。長野県では欠員、今75人で過去最多で。箕輪町で今、欠員教員は何名とかありますか。欠員が出ているって、教員の欠員、足りてない、それは箕輪町ではない感じですか。

○14番 小出嶋委員 全部、正規の、正規のっていうか、でない部分もある、加配とかそういう。

○9番 南委員 臨時の。

○14番 小出嶋委員 うん、そうそう、そういうものではあると思いますけど。

○9番 南委員 臨時で足りているっていう。

○14番 小出嶋委員 そう。クラスの担任とか、それではないと思いますけど。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 南委員

○9番 南委員 国庫負担金制度が2分の1から3分の1になった理由っていうか、は何でしょう。

○14番 小出嶋委員 三位一体の改革で、そこを減らしたという。

○9番 南委員 何かメリットってあるんですかね。

○14番 小出嶋委員 いわゆる国が負担する部分を、その三位一体の改革の中で減らそうということで、今まで2分の1だったのを3分の1にして、あとはこの負担を、いわゆる国の義務教育、この負担、国庫負担っていうことで、国庫負担っていうことになるとう義務的に、もうその国庫は出さなきゃいけないんだけど、そうじゃなくて一部は補助金とか、交付税に算入したよということでやると、財源的にも国は少なくなるということで、この三位一体の改革の中での2分の1から3分の1にしたということです。一応、この2分の1から3分の1にしたときの、その減らした部分は地方交付税で対応するんだよっていう話になっていただけだけど、それは昨日もちょっと話をしたけど、地方交付税っていうのは国庫負担金と違って、各市町村とかそういうところによって全然、交付される額が違うということになるんで。そうじゃなくて、ちゃんとした国庫負担として負担してもらうように、その3分の1から2分の1に戻してもらいたいということです。

○9番 南委員 結局、自治体の負担が増えている状態っていうことですよ。今はね。

○14番 小出嶋委員 そう。地方交付税っていう、総額っていうのはもう決まっちゃっているもので。だから、そこに振り替えたよって言うても、もうなかなか今までこの国庫負担金だったときのようにはいかない、交付されないということになっていますね、今の現実。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 小口委員

○8番 小口委員 今のお話で、すいません、理解が追いついてなくて申し訳ないんですが、その地方交付税で対応するっていうふうになったっていうことは、国庫負担が教育のためだけに下りてきていたものが、自治体によってはその地方交付税の額とかも減らされたりとか、教育ではないものに使うお金もひっくるめて、地方交付税になったっていうことでしょうか。なので、教育のためだけに使われるお金をもっと増やしたほうがいいっていう意味でもあるんでしょうか、これっていうのは。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 小出嶋委員

○14番 小出嶋委員 そうですね。地方交付税っていうのは、いわゆる一般財源っていう一般的に何に使ってもいいという。ただ、算定する内容では、こういう方法で算定しているよという、その内容はあるんだけど。それが普通の補助金とか国庫負担金みたいに、完

全に用途が固定されて、それに使わなきゃいけないということにはなっていないくて、一般財源として使うということになっているわけですので、今言われたように、この教育、その減らされた部分を別に教育に使わなくても、違うことに使ってもそれはいいということにはなっちゃうわけですね。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 南委員

○9番 南委員 今、箕輪町は人数も、学級の人数が少ない、西小なんて少なくて、少な過ぎるぐらいって思っているんですよね、私なんかはね。これからも子どもは減っていくのが現実、クラスの人数は。なので、さらなる少人数学級は小口さんは要望しているけど、私はそんなに思ってなくて。だったら、もっとそれよりも本当に教員数が足りてないっていうほうを強く言って、長野県の現状もあるので。何か少人数学級の、何か絞ったほうが私的には、何か腑に落ちるっていうか。教員が足りてない、その負担も変わったことを言ったほうが、何かストレートな感じがするんですけど。

○14番 小出嶋委員 それもね、両方あるんだよね。この中に入っているっていうことで。

○9番 南委員 そうなんですね。

○14番 小出嶋委員 そうなんです。確かにね、いろいろ意見があって、今これは今まではこの35人学級っていうのを、以下の全部のあれが目指して、さらにという、さらに減らしてっていうことなんだけど。これ、どんどん、どんどん減らしてっても、幾ら減らしでもいいよっていうことじゃなくて、大体その規模としては30人から35人くらいの間がいいんじゃないかっていう、それを保てないところはさっきの複式学級になっちゃうようなところも含めてあるんだけど。ということで幾ら減らしちゃってもいいっていう、さらなる少人数学級っていうのを、物すごく減らしちゃってもいいっていうことやなくて、その30人くらいの規模までという内容のようです、それは。減れば減るほどいいっていうことではないという、いわゆる学校のクラスの中の集団っていうかね、それがあれで少なくなってしまうと、それはそれで問題に、問題にというか、そういう対応が子どもたちにとっても教育の（聴取不能）。

○9番 南委員 私はあんまり、そのもっと少人数学級にという必然性は、箕輪町では、箕輪町ではね、感じていなくて。それをもっと求めている小口さんの意見とかを私は聞きたいですね。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 小口委員

○8番 小口委員 今、言おうと思ったんですけど、西小とか少ない人数の学校はすごく恵まれていて、先生も余裕があるし、子どもたちも余裕がある。ちょっと、部分的には問題はあったりはするんですけど。でも、中部小とか北小とか、特に箕輪中学が本当にもうぎちぎちしていて、先生たちもすごく何て言うか、廊下を走るなど言いつつ、自分たちが走り回っていて、そういう感じですよ。3分前行動だって先生が毎時間、どなっている、隣のクラスでどなっているとか。すごく先生も生徒たちも疲弊しているような感じが

あって、なので何て言うか、余裕がなく詰め込まれている、管理されているっていう状況もあって。その成り手不足っていうのもあるんだけど、欠員っていうのはやっぱり労働的っていうか、やることがたくさんあり過ぎて先生たちが休職をしたりとか、辞めてしまったりとか、そういうことで減っていて足りなくなっているっていう面も多いと思うんです。なので、その二つ目の請願のカリキュラムオーバーロードっていうのも、指導要領の内容を見直して、もうちょっと余裕を持ってということだと思えるんですけども。そこと両方でやっていくっていうのが本当に必要だなとは私は思っています。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 なので確かに、さらなる少人数学級っていう、ちょっと目線をそろえなきゃいけないことと思う。多分、南委員は西小基準で言っていると思うんですけど。要は請願の趣旨は、国が35人っていうのが定員だから、ここ適正ですよと考えていると。この35人よりも少ないほうがいいですよっていうのが今回の請願の趣旨なので、自分たちの小学校、目線をちょっと1回、35人が適正とする国の姿勢に対して、少人数をさらに求めるのかどうかっていうところで議論していただけますか。小出嶋委員

○14番 小出嶋委員 今、言ったように35人以下の学級をとということなんだけど、ここに今の請願のところにもありますけど、それをするためには、さっき言ったようにお金が要するというし、当然今も箕輪はそうじゃないけど、35人学級にすることによって教員が足りなくて、いわゆる、簡単に言うと臨時の教員を充てているっていうことも結構あるっていうことなんで。それには各市町村が金を出して、それに対応しているということで。そうじゃなくて、ちゃんとその35人学級にするための要は正規の教員を配置できるように、ここにあるように国の予算を、教育予算をつけろということも、この一つの目的ということですね。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 南委員

○9番 南委員 そうですね、西小をよく見ていますけれど、何だろうな、そんなに何ていうか、ごめんなさい、中部小ぐらいとか、昨日の東小もそんなに私は人数が多いとは思わない。中学校だけは多いのかなくらいは思っている、必要なのは中学校かな。あとは、長野県で教員が足りていない、配置できてないことは、その予算が足りないからが主な原因ですか。お金が来れば、教員は足りるんですかね。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 小出嶋委員

○14番 小出嶋委員 さっき言ったように、これは二つあると思います。一つは、この後の請願でも出てくるけど、なかなか先生たちの仕事の内容が厳しくて、成り手がなくなっていくことが一つ。それから、さっき言ったように引下げが、それに伴って教員が確保できないっていうことと、その金がないから臨時職員で対応するっていうことになってしまっているという、その二つだと思います。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 いかがですか。どうですか。何かもやもやする。

○9番 南委員 誰か、ほかの人の意見も。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ほかの人の意見ね。はい、中村委員

○13番 中村委員 このような請願書というのが、もうここのところ、ずっと出てきているということで。先ほど南さんとかは西小の問題とか、中部小の問題とか、箕輪中学校の問題とか、そういうことを重点的に思いながら見ていると思うけど、箕輪町は割かし恵まれているほうだけでも、長野県全体とすると、やはりこの35人学級というようにしろと国では言っているんだけど、なかなか財政とかいろんな問題で35人にできなくて、中学校あたりは40人とか、そういうふうになってしまっているの、その部分も改善してもらいたいというので毎年、出てきているということと。あと今回、一般質問に当たって教育長ともいろいろ話したりしたんですけど、箕輪町も足りているとはいいながら、だんだんやっぱ、そういう出てこない先生とか、辞めてっちゃう先生とかもあって、なかなか確保していくのにも、箕輪町でさえ苦慮していて、それで一番、そういうのが顕著に表れているというのは、担任は担任でしっかりつけているんだけど、副担任とかそういう部分、やっぱ足りなくて教員のOBの人を臨時的に頼んだり、そういうこともあったりしているみたいです。ほんで、2分の1から3分の1になってしまったっちゃうことで、なかなか財源的にも厳しいということで、これも何回も何回も出ているんだけど、なかなか改善というか、元に戻してもらえなくて。こういうことはやっぱ継続的に訴えていって、何とかそういう元に戻るような体制にしていっていただきたいということで、何年も何年もこういうふうに出ているということであると思います。

先ほど、これ二つに分けたらいいとか、そういうのも出ていましたけれども、この請願について、この方がこういうふうに思っているということで出てきているので、それを大幅に変えるということは、ちょっとその方に対して失礼というか、そういう部分もあったり、内容が変わってしまっていては請願の価値がちょっと変わってしまうということもあると思うので、なるべくこの請願を見ていただいて、これを出したほうがいいか、やめるかとか、そういうふうに判断していったほうがいいと思います。委員長も先ほど言ったので、少しくらいの追記とかはしてもいいと思いますけど、大幅に変えるということは、ちょっとできないというか、しないほうがいいと私は思いますので、よろしくお願いします。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 白鳥委員

○4番 白鳥委員 今回の請願書の表題っていうかね、さらなる少人数学級推進と教員増のための予算確保っていうものがうたわれてますんで、本来であれば全部、国で出すところを、2分の1から3分の1に引き下げられたことによって、自治体によって負担が多くなっているっていうのが現状っていうのを見てもらってほしい。この少人数学級、35人規模学級っていうのは、もうずっと昔から40人で、昔は50人とかって言われたときもあったし、40人だし、35人っていうのも引下げも、長い間、続けてきた結果が今この35人規模学級。その原因っていうのはやっぱり先生1人で見える生徒の数が多くなると、やっぱり生徒を見きれないっていうのが、やっぱ現場の声からっていうのが出てきたっていうのがあって。やはり、それが1人で先生が見る人数をやっぱ減らしていくっていうのが大

事じゃないか。それは先生のためであるし、生徒のためでもあるっていうことが基本的な考えがあったと思うんですよね、この人数を減らしてきたっていうのが。東小もね、少なからず人数が少ない学校にはなっているんだけど、やはり先生と生徒の距離が非常に近いっていうのがね、いろんな行事を見ていて思うんですよね。それは、やっぱり先生たちが子ども一人一人をちゃんと見ていてっていうのが、対応できているっていうのが、やはりそこに出ているのかな、っていうのは、運動会を見たりとか、音楽会を見たりとか、いろんな行事を見ていて、そういうふうだと思うんですよね。なもんで、それは求めていることに対しては、やっぱり今現状としては中学が非常にオーバーしているところも実際ではあるもので、それも小学校並みの35人規模学級にしていくっていうことは非常に重要だと思いますんで。この請願の趣旨もまた見ていただいて、さっき南さんが言った教員確保のための努力をするっていうことも加えていく必要があると思うんで、それはまた予算の確保も必要だと思うんで。加えらとすれば、そういうところも加えて意見、請願、意見書にしていけばいいのかなっていう私も考えはあります。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 小出嶋委員

○14番 小出嶋委員 今、先ほど中村さんが言われたように、この内容っていうのは即、箕輪町に全てが当てはまるっていうことじゃないっていうことは確かにそういうことですけど。複式学級も箕輪にはないということであるんですけれども。これ、全ての市町村にこの請願を出していくということで、全ての市町村から国に上げていこうという内容です。本当に、その市町村のところで、これ必要ないんじゃないかって、減らさない、減らすことも必要、そういう意見もあるかと思いますが、できれば、こういう状態でみんなで予算の確保のために、この請願を国に上げていってほしいという趣旨も入っているということです。毎年これ、少しはちょっと違いますけど、毎年これと同じ趣旨で出てきては確かにいます。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 南委員

○9番 南委員 だから、全国を代表して言っているっていうことですよ。全国的な問題で、みんなが言っているってことですよ。同じ共通でね。箕輪町がどうこうじゃないっていうことですよ。分かりました。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 小口委員

○8番 小口委員 すいません、そうです。全国的ですけども、もちろん箕輪町にも物すごく当てはまっているっていう実態は、私は聞いているので。中学の先生が、娘が支援級で少人数なときに先生が来て、中学一つっていうのはもう人数が多過ぎて大変だ、二つにするべきだったとか、ちょっと、ぽろっと、愚痴を言っていくそうなんです。ほかの教室では、みんな余裕なくやっているんだけど、ちょっと先生もそういうところで愚痴を言ったりとか。あと東小だったり南小だったり、少人数の学校から中学に行って不登校になってしまうっていう子も物すごく多くて、子どものためにも少人数にして、先生がきめ細やかに1人ずつ見られるっていう体制にしないと、生徒たちも学校に行けなくなっ

てしまうっていう実態があるので。もちろん、箕輪町の実態もそうだし、全国的にもそうだろうっていうことを、ちょっと付け加えさせていただきます。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ほかにございますか。

例えば、もう請願項目の中に教員増というのがうたわれておりますので、例えばこの後の協議になると思うんですけども、1番、2番に新たに、1番で例えば成り手不足解消とか、定員確保に努めることって追記して、1番と2番をそれぞれ2番と3番に繰り下げて意見書を作成するっていうのも一つの方法です。もうそもそも教員増は求めていますので、請願のほうで。なので、それは請願趣旨を損なわない程度で、もちろん議会として出す話ですので十分、南委員の主張というのは届けていく、国に届けていくことはできるかと思えますけど。小出嶋委員

○14番 小出嶋委員 今の話ですけども、その教員不足の話はその次の請願でまた、そこで意見書を出すことにお願いをしてありますので、そっちのほうで出てくるっていうことで。これはこの国庫負担を、その教員不足を解消するためのあれも入っているんですけども、国庫負担を増やせという思いの内容で、この請願は意見書を出していただきたいということなんです。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 白鳥委員

○4番 白鳥委員 小出嶋さんから今、発言があったとおりなので。次の意見書で、多分その教員確保とか、そういう関わりの意見書になってくると思うんです。これはこれで、この原文どおりで出してもいいのかなというふうには思いますけれども。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ほかにご意見ございますか。よろしいですか。

(「なし」の声あり)

では、質疑を打ち切ります。

討論に入ります。討論ございますか。

(「なし」の声あり)

○10番 寺平福祉文教常任委員長 討論なしと認めます。

それでは、請願受理番号1番、請願項目、さらなる少人数学級推進と教員増のための教育予算確保、義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充を求める意見書採択の請願について、採択することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ご異議なしと認め、採択することと決しました。その旨、本会議で報告いたします。

それでは意見書の作成に入りますので、意見書案を配付してください。あれ、ここで、これでやるんだっけ。

では、意見書の作成に入ります。一番大事なのは記以下の1番、2番の項目です。あとは、その次に文章内容、削除修正は行っていただければと思いますけれども、ご意見をお願いいたします。

これさっきと一緒に、内容一緒ですよ。先ほど、朗読のとおり。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ちょっと違う。じゃあ、読み上げてください。

○宮尾議会事務局次長 朗読

○10番 寺平福祉文教常任委員長 それでは、ご意見をお願いいたします。

追記する、しない。南委員

○9番 南委員 何回も出てきていて、全国的な問題っていうので確かにそういう学校もある反面、何かいろいろ、辰野とかが例えば、統廃合の学校とか全然もう広い、この間、行った徳島とかは、あんなに広い山林に数校しかなくて生徒もすごく少ないとか、何かそういうところの実情とはやっぱり合っていない話だになっていうのもあって。何か、例えば本当に少人数学級がいい人は、そういう教育を目指して移住する人もいて、教育移住する人もいて。だから、それを全部が、全然もっと生徒足りない、欲しいよっていう学校もいっぱいあって。だから、すごく偏ってきていると思うんですよ。だから、何か全国一律に、何て言うのかな、お金を出せば解決する問題でもないのかなっていうのが私の中にあって、何かもやもやしているんだと思います。

○入杉議長 だから、この文章をどうするかっていうこと。

○9番 南委員 そうなんですけど、だから何か、そうなんですけど。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 そうそう。なので、趣旨は分かるんですけど、要は35人学級が適正だと思っている政府、そこ基準で。なので、小規模学校とかはそういう実情はある、それも分かるので。それは多分、別途、別の請願が出てきたときに。なので、今回はあくまで、この35人を適正としている政府の基準を、そこを下げてほしいっていう。

○9番 南委員 結局、国庫（聴取不能）。

○入杉議長 指名していただいてよろしいですか。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 はい。どうしますか。今だったら、趣旨を損なわない程度で文書は変えられるので、南さんの意見は大きくは外れてないと思うんですよ、その請願の趣旨と。なので、何らか反映はできると思います。白鳥委員

○4番 白鳥委員 今、さっきのあの文章だけど、それぞれ自治体で独自の基準でやっているっていうところが出てきちゃっているんだけど、要はそれをもう国基準にしましょうっていうのが多分この趣旨、請願の趣旨だと思うんですよ。そうすると、それに応じて国の予算、教育予算っていうのが定まってくるわけだから、全体をまずそういうふうにしないと、要はいきませんよっていう今回の趣旨だと思うんですよ。もう国基準自体を変えていかないと駄目ですよっていう、自治体任せじゃなくて国で、こういう人数にしたいほうがいいよっていう趣旨の請願になってくると思うんですよ、これ。各自治体の事情はあるけれども、もう国でそういう定めを示してほしいっていう意見書っていうか、請願になってくるんで。そこら辺もちょっと考えてもらえばいいのかなとは思いますが。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 中村委員

○13番 中村委員 先ほどの南さんの意見もありましたけども、最初のページのところ

で、下のほうに小中学校っていうのは公な教育ということなので、それで自治体がそういうふうには、どっか田舎とか都会とか、そういう自治体のそういう部分で格差が生じるということが大きな問題だからということで、この請願を出しているんですけど。先ほど、請願は出すって決まったので、今はこの意見書をどうするかということになっているので、その辺をちょっと考えてみていただくのが今の時間だと思うので。請願を出すって決まったので、この意見書をどういうふうにするかということで、何か意見等ある方は出してもらいたいと思います。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 南委員

○9番 南委員 そしたら私は、その記の下に教員数を増やすっていうのが入っていないんですね。えっ、入っている、教員数。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 (3)。

○9番 南委員 そうなんだ。それが教員数を増やすにつながる。何か、それは1番に持ってきたほうがいいような、私は気がするんですけどね。まあ、いいや。私的には、こっちを先にとというのがあります。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 別にそれは、順番を変えることは全然大丈夫なので。あと、今回のこの(3)は係数を増やすっていう。小出嶋委員

○14番 小出嶋委員 先ほど請願が採択されましたのであれですけど、その表題にも書いてあるように、さらなる少人数学級の推進と教員増のための教育予算確保っていうことで、それに倣ってこの(1)、(2)、(3)の順番にしてあると思いますので、これで私はいいと思います。そういうことで、直接そのところには出てこないけど、この、(3)の教員の係数の改善っていうのが、いわゆる教員の定数を増やすという内容につながっていくということですし、複式学級はあれですけども、少人数学級の推進もいわゆる、最後のところにある3分の1を2分の1にするという、いわゆる国の責任で、国の国庫を付けて教員を確保するという内容になりますので、私はこれでいいとおもいますがね。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 白鳥委員

○4番 白鳥委員 この3つについて検討し、と書いてあるので、どれを、順番を先に進めろというふうには書いてないので、この順番に特に問題はないと思いますので、このままでいいと思います。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 あとは、先ほどから議論になっている、教員の定数をかけている状態、要はなり手不足解消の取り組みを追記するかどうかですね。この3番の教員基礎定数算出。あ、白鳥委員。

○4番 白鳥委員 この3番のところに教員増に関わってくるところが出てくるので、特別明記しなくてもいいのかなと。これで対応できるのかなと思いますけれども。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 例えば、3番に改善し教員増を図ることとか、そういう程度の、趣旨は変わらないので、そういったこと。そのほうがわかりやすい。じゃあ、南さん提案してください。

○9番 南委員 教員増のためっていうのを入れるとより伝わると思います。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 では、今(3)について、教員増のためを冒頭につけて、教員増のため教員基礎定数算出に用いる係数の改善という文章でどうかと。1の(3)。

「教員増のために」を追記。教員増のために教員基礎定数算出に用いる係数の改善。でもこれ同じ意味ですよ。 (3)。 だけど、より分かりやすくした表現。

○入杉議長 二重に表現することになるからおかしいと思うけど。

○4番 白鳥委員 教員定数を増やすためには、その基礎定数っていうのが、増えないと、という。 そうしないと増えないっていうのがある

○10番 寺平福祉文教常任委員長 でも別に入れてもいいと思いますけど。 小出嶋委員

○14番 小出嶋委員 具体的には今のように出てこないけれど、この目的が、(3)の目的が今の教員を増やすためということ。 いろいろ聞きなれない単語が出てくるので、そういう感じがするかもしれないですけど、それが、いわゆる、これがその教員増にするための、教員増にただするだけじゃなくて、いわゆる国庫負担による教員増にするためのことなんだよね、これはね。 1番にもあるように、教育予算を確保する事というので、これは国が確保することという、この定数はその、国が教員増をするための定数を改善しろということですので、単なる教員増だけじゃなくてということがこの、大きな1の中には入っていますので、これでいいと思いますけど。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 白鳥委員

○4番 白鳥委員 先ほどから言っているように、国自体の係数を変更しないといけないということと、国自体でまず教育予算を増やしてほしいというのがこの趣旨に書かれているので、特にその順番は、今の付け加えの文章がなくても、このまま、これ国の独自の基準、国の基準なので市町村とか自治体独自の基準じゃないので、国の基準自体をあげないといけないという趣旨のことだと思うので、私もこのままでいいと思います。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 南委員

○9番 南委員 疑問がわいてしまって、複式学級というのはそもそも人数が少なくなって、3年生、4年生とかくっつけるわけじゃないですか。それを、さらに引き下げると複式学級が二つできるんですか。どうなるんですか。どういうこと。人数が足りなくて複式学級にするんじゃないんですかね、これって。

○14番 小出嶋委員 学級定員を今は小学校で16人、中学で8人と全国でなっているけど、長野県ではそれを小学校で8人、中学で8人というふうにしているわけね。更にそれを引き下げ。

○9番 南委員 ということは、複式学級が複式学級じゃなくなるっていうことですよ。 なら、わかりました。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 議長

○入杉議長 委員長は塾やっているからわかると思うんですけど、複式学級っていうのを南

さんがよくわかっていないんじゃないかと思うんですけど、3年生も4年生も5年生も一緒に勉強するとなるとすごく大変だから、人数を少なくしようっていう、そういう意味。

○9番 南委員 それはわかっているんですよ。その3,4年生とかをくっつけると大変だからっていうのはわかっていますけど。くっつけないって。

○入杉議長 くっつけないというか。でも、この内容はちょっと違うと思うんですけど。複式にしないじゃなくて、複式学級の中の定員数を少なくする。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 小出嶋委員

○14番 小出嶋委員 複式学級にする定員を少なくする。だから、一つのクラスが16人だったのを10人にしても、それは複式にしないという。今は国の基準だと16人を下回ると違うどこかの学年と一緒にして複式学級にするわけ、複式学級にする基準では。だけど、それを、定員を下げると8人になっても複式学級にしないという。複式学級の定員を、複式学級の、と書いてあるけど、複式学級にするための基準を下げるというか、上げるというか。

○入杉議長 だから私が言ったことと違うの。一緒でしょ。

○14番 小出嶋委員 同じだけど、そういうこと。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 それで、教員増のために、を入れるか、入れないか。

○9番 南委員 いいです。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 入れなくていいですか。意味は一緒です。変わらない。他にご意見ございますか。よろしいですか。中村委員

○13番 中村委員 記のあとの、1 どの子にもゆきとどいた教育をするためというのが、結構ひらがなが入っていて、これを漢字に置き換えると1の最後のところ「と。」というところが一個だけはみ出ているんだけど、これが一列で収まるんじゃないかなと思って。いつもは一般質問とか考えているときに、ちょっとそういうところが気になっているんですけど、その辺はみなさん気にならないでしょうか。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 白鳥委員

○4番 白鳥委員 特に私は、違和感はないのでそのままでもいいと思いますけれども。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 どう思いますか。なんか最近みんなゆきとどいたってひらがななんだよね。白鳥委員

○4番 白鳥委員 私はこのままでいいと思いますけども、皆さんの意見があればお聞かせください。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 南委員

○9番 南委員 個人的には届くだけ漢字にしてもいいかなと思うんですけど、あえてひらがなにしたいのかなって。意図があるのかなっていう気がする。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 これ一行にしたいっていうことね。

○9番 南委員 ためはひらがなが標準ですね、標記的には。間違いとかじゃないんだけど、間違いではないですよ。最近の、そういう、例えば新聞とかで見ると、なんていう

のかな、標準的な構成の決まりみたいなものがあって、だから意図的にひらがなにしているっぽく感じる。この人がね。わからないけどね。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 これ、次長、サイズを変えることで一行にすることってできますか。1番。次長

○宮尾議会事務局次長 こちら、議案の様式に合わせて作りますので、それで一応、提案ですけれども、中村委員さんこの見た目を気にしていただいていますけれども、文章的には、「と。」は一個右に来るんですけども、このままでも大丈夫かなという気はいたします。以上です。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 「検討し」の後ろの「、」を一個取ったら一行になりますか。

(しばらく聴取不能)

○10番 寺平福祉文教常任委員長 では、暫時休憩とします。また、再開は追って連絡します。

(暫時休憩)

○10番 寺平福祉文教常任委員長 会議を再開します。それでは、次長より意見書案について説明を求めます。

○宮尾議会事務局次長 今お手元に配った資料なんですけれども、すみません、今短時間だったので、皆さんのところに配った記の下の括弧が半角になっちゃったりとかしておりますけれども、私の方でこの部分、修正が間に合わなかったもので、元はきちんと直しておきます。今、先ほど見ていただいたものとの違いとしましては、町の方で出す文書なので、町の文書は和暦になっていますので、西暦を和暦に直してみました。一応、数えたつもりなんですけれども、2025年が令和7年とか、他のところも一応ご確認いただいて、それで、体裁とかは先ほどもお話が合ったように、あて先のことは、また送るときには、この下の箕輪町議会の上のところ、衆議院議長〇〇とかってというのが載るんですけども、一応こういう形で出したいと思います。中身をご確認いただいて、ご指示をいただければと思います。以上です。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 変更点が和暦に直したというのと、全体の構成をちょっと整えたということで、ご確認をお願いします。

よろしいですかね。和暦、たぶん、僕の見ただ中でもきちんと直っておりましたので、では、この内容で意見書を提出したいと思いますので。意見。賛成っていうこと。意見がある。ちょっと待ってね。発言を求められておりますので、これ、正規の委員会です。発言でしょ。発言したいんですよ。なので、委員外議員として、出席していただければ発言はできますので、それは委員会で決めますので。ただいま、委員外議員として参加したいという申し出がございましたが、ご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○10番 寺平福祉文教常任委員長 じゃあ、岡田議員

○岡田議員 許可をいただきありがとうございます。大したことではないんですけども、記書き以降の(1)、(2)、(3)については、文章ではない箇条書きなので、「。」がいらないかなと思います。みなさんの判断でご検討いただければと思います。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 文章じゃないね。どうしますか。「。」いらない。
白鳥委員

○4番 白鳥委員 (1)、(2)、(3)のところの項目になっているところの最後の「。」はいらないと思いますので、削除でいいと思います。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 削除でよろしいですか。じゃあ、削除したものを提出いたします。南委員

○9番 南委員 細かいことですが、最後の1文は右寄せにした方がいいのかな。以上っていうところから。一番、最後の。右寄せにした方がいいと思います。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 次長

○宮尾議会事務局次長 役場の文章的に一行開けてというふうで、それでこういうふうな、以上と続いていますので、町の文章に合わせてありますので、左寄せというか。

○9番 南委員 じゃあ、もう一つ開けた、一行開けた方がいいんじゃないかな。繋がっちゃっている。

○宮尾議会事務局次長 今、南議員さんからのご指摘とかもあって、一行「すること」で一個開けて、二行目のところから「以上」というふうにします。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 他にございますか。よろしいですかね。

では、以上、修正点を修正したうえで、本会議に提出したいと思います。じゃあ、これはこれで終わりか。なにかあった。まだ閉じてないからいいけど。南委員

○9番 南委員 北野さん、どうですかね。なんにも声聞いてないんで。北野さんの意見聞きたいなって。なにかあれば。

○11番 北野委員 なんにも、大丈夫だと思います。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 はい、大丈夫です。じゃあ、まだもう一個、請願もあるので、はい、引き続きご意見いただければと思います。

では、引き続きよろしいですかね、請願。次に参りたいと思います。

それでは、請願受理番号2番、カリキュラムオーバーロードの改善を求める意見書採択の請願について、を議題といたします。

説明を次長に求めます。

○宮尾議会事務局次長 朗読

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ただいま、次長の説明が終わりました。委員会室に紹介議員の小出嶋文雄議員がいらっしゃいますので、説明を求めます。

○14番 小出嶋委員 今、朗読していただきました請願の内容ですけれども、カリキュラムオーバーロードの改善を求める意見書採択の請願ということであります。

内容につきましては、そこに書いてあるとおりでありまして、一番下にあります、いわ

ゆるカリキュラムオーバーロードっていうことで国の教育課程基準に基づき、学校が定めた教育課程の時数と内容が過多になっていて、子どもや教職員に過大な負担がかかっている状態になるということで、その学習指導要領の内容の精選等を行って、実際の実行にはそのように、子どもたちには精選をして教えられるような、教員に対する負担を減らせるようなことをしてもらいたいという内容の趣旨であります。

内容については今、先ほど読んでいただいたとおりですので、お願いいたします。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 紹介議員による説明が終わりましたので、ただいまより質疑に入ります。質疑、意見等ございますか。南委員

○9番 南委員 実は学習指導要領と違って結構、学校によって自由だということで、別にカリキュラムどおりにやらない学校も公立学校であるのと、例えば通信簿もない、テストもないっていうような、伊那小がそうなのかな、ということがあるんですが、その辺り、何ていうのかな、もっと自由裁量が本当は認められているっていうことだと思うんですけど。その点について皆さん、どう思いますか。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 小口委員

○8番 小口委員 本当に各学校の裁量が認められているっていうのは聞いたことがあるし、そうしてもらいたいなと思うんですけど、大学受験だったり高校受験だったりとかに、何ていうんでしょう、競争についていけないみたいな、親の要請とかもあつたりとかして、反対が起きたりっていうこともあるみたいなので。そもそもの学習指導要領の精選っていうんですか、つくり直しというか余裕を持ってということは必要なんじゃないかなっていうふうに思います。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 南委員

○9番 南委員 今の小口さんのから考えると、先生としてはオーバーロードと言っていて、もし、お受験とかを必死にしたい親たちは、カリキュラム減らされたくないっていう意見もあるんでしょうか、親の中には。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 小口委員

○8番 小口委員 実際に私は聞いたわけじゃないんですけども、ちょうど教育長と話をしたときに、余裕を持って時間数にしたりとか、先生の余裕を持たせたいっていうふうに改革はしたいんだけど、でもそうすると保護者からの要望があつてみたいなことをおっしゃっていたので、この町でもやっぱりあるんだなっていうふうに思います。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ほかにございますか。

私の、ちょっとね、あんまり委員長が発言しちゃいけないと思うんだけど、ちょっと学習塾の経験があるので、ちょっと。これね、カリキュラムオーバーロードになっていると思います。というのも、裁量が増えて自由化されたっていうのは、これいいことだと思うんですけど、結果どうなっているかっていうと、どんどん勉強することが増えているんですよ。何故かという、今までは勉強すべきことってきっちり決まっていたので、要はこ

れだけ勉強すれば、あとは教えなくてもいいよってところが、その上限の天井を外したんで、高校入試が難しくなる。そうすると、それに対応したことも教えなきゃいけない。ただ、授業時間数は変わらないっていうことになる、一番の弊害は、理解してないなっていうのが、先生は分かるんだけど、次、教えなきゃいけないことがあるから、じゃあ、次行くねって、家で、自分で勉強してねっていうふうになりがちで。イメージ的には昔、高校でやっていたことが中学で教える。昔、大学入試で出てきたことが高校入試で出ている。それに中学校は対応しなきゃいけない。授業時間は変わらない。となると、やっぱり先生の負担と、やっぱり、子どもの負担、負担どころか、もう置いていかれている生徒もいるんじゃないかなっていうのは予測できる現状だと思います。北野委員

○11番 北野委員 先生方は本当に勉強を教えるだけが仕事ではなく、私もちょっと今回、一般質問でやらせていただいたんですけれども、個別対応やら本当にいろんな仕事に追われておりまして、もうとにかく時間的にも先生の精神的にも今、本当に厳しい状況になっていると思いますので、それがこのカリキュラムオーバーロードの本当に原因になっていると思うんですけれども。やっぱり学校の裁量に合ったというか、そういう状況にしてあげなければ、先生の時間的また精神的な余裕を与えてあげなければ、本当に先生になっても辞めてってしまうとか、病気で休職してしまうとかっていう、そういう悪循環に陥ってしまうと思うので、考えるべきだと思います。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ほかにございますか。白鳥委員

○4番 白鳥委員 今、北野さんもおっしゃったとおり、先生たち非常に自分のクラス担任を持って、さらに中学だと特に教科担任を持ったりして、自分たちのクラスだけではない子どもたちも指導しなきゃいけないっていうことで非常に大変だと思います。授業数っていうのは、基本的にこれまで変わってきてないのかな、あんまり。今まで、私たちだと土曜日も半日授業があったりとかして、それで時間数を確保されていたんですけど、働き方改革っていうかね、ゆとり教育という、名ばかりのゆとり教育って言っちゃいけないけど、それが週5日の日数の中で授業時間数はそんなに大きく変わらない中で、ある程度、指導要領の中では自由度を求められているんだけど、やはり決められた過程をこなさなきゃいけないっていうのもあって、それだけでもね、やっていかなきゃいけないっていうのも非常に先生たちの負担に大きくなっているし。先ほども出たけど、その子どもたちの理解度がちゃんとしないまま授業が進められていくっていうのが、非常に問題があるのかなというのがあります。やっぱり今の週5日の授業時間、日数の中で決められて、ある程度やっぱり理解して進むには、もう少しゆとりを持ってやっていくのが非常にいいんじゃないかと。それは先生たちだけじゃなくて、子どもたちのためにも非常になると思います。今回の趣旨に沿って進められることが一番いいのかなと私は思います。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 南委員

○9番 南委員 皆さんがおっしゃることは分かります。でも、ちょっと先ほど委員長が言った難しい内容が下に下がってきているっていう話が、私は何か逆なような気がしてい

て。結構、大学に行ってもすごい全然、基礎的なことが分かってないっていう話も聞くので、その辺はちょっとどうなのかなって思うんですけど。何だろうな、はい。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 白鳥委員

○4番 白鳥委員 その基礎的なことが分からないっていうのは、やはり詰め込み過ぎて理解しないまま授業が進んでいるっていうのが、現状一番の原因だと思うんですよね。ある程度、ちゃんと理解した上で進むのであれば、その基礎的な学習能力っていうのがあって、その応用ができるんだけど、基礎がないうちに応用になっちゃうと、やっぱり理解できてないっていうのがあからさまに出てくるんで。やっぱり、ある程度きちんとした余裕を持った授業を進める、本当に理解できるまで進めるっていうのは非常に、そこにもつながってくるんじゃないかなっていうふうに思いますけど。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 多分ね、僕、あんまり発言しちゃいけないんだけど。大学で基礎学力ができてなかった問題っていうのは、受験科目で数学を外した時代があったんですよ。経済学部に入ったときに数学を勉強してないのに、要は微分積分を勉強してないまま経済学部に入る。そういった背景もあって、今は受験科目を増やす方向なので。ちょっと僕、高校生を教えてないから分からないんだけど、極端に学力不足っていう印象じゃなくて、むしろ何か、昔、自分こんな勉強してないのになんていう大学の先生方、ちょっと多いので。僕はちょっと、高校は詳しくないんだけど、今回は、あっ、高校か。義務教育課程のオーバーカリキュラムの要望っていうことで、ちょっとその点で議論していただければと思いますけど。どうぞ、議長

○15番 入杉福祉文教常任委員会議長 このカリキュラムのオーバーロードはですね、ゆとり教育の流れがずっと続いていて、カリキュラムもまたどんどん元に戻ってきたわけですね。それで今現状は多分、秀行さん、現役で塾やっていますのでご承知で、英語がものすごく難しいんです、今。これはもう信じられないほど難しい。それはそのカリキュラムをどういうふうにつくっているか分からないんですけど、こんな文法をやるかよっていうくらいのをね、どんどん下に落ちてきているので。だから、かなり。数学に関しては、もう二極化でできる子とできない子になっちゃっているんで、それはそのオーバーロード以前の問題になりますので、何ともいえないんですけど。ただ、私はカリキュラムオーバーロードの現状は先生たちの雑用が多過ぎるんじゃないかと思うんです。だから集中的にカリキュラムがこなせない、だから集中的な授業ができない、だからできる子とできない子がもうきっぱり分かれてしまう。塾に行っても、できる子とできない子は歴然としている。この状況なので、根本は、私は雑用をいかにして分業化してね、先生の仕事を減らすかっていうことにあって、カリキュラムはカリキュラムで適正だと思っていますというのが私の意見です。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 南委員

○9番 南委員 私も何か、その辺がもやもやしていて、やっぱりモンスターペアレント問題とかそういう、そっちのほうがおかしい、いじめ問題とか、そういうことで。だから、

これからの子どもって多分、受験してもほぼ全員入れるぐらいになってくと思うんですよ、私たちみたいに一浪、二浪する、とかなくてね。だから、何かそれでまた緩くして、基礎的学習能力の全体的なレベルが下がるようなのは、何か日本の国力として違うなって思っていて。だから、本当はそこじゃないだろうっていうのがあるので、若干カリキュラムだけのせいにするのがなっている。ちゃんと学ぶ時間っていうか、勉強だけが人間教育の全てじゃないのも分かるから悩むんですけどね。

○15番 入杉福祉文教常任委員会議長 ここでカリキュラムを減らしたら、またゆとりに戻って。

○9番 南委員 何かね、そんな気はするので。若干、すごく大手を振って賛成みたいな感じではないかな、っていうのがある。

○15番 入杉福祉文教常任委員会議長 しわ寄せは高校にいくんだよね。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 まあ、そうですね。

○15番 入杉福祉文教常任委員会議長 カリキュラムをここで減らしても、行く行く高校へ行って、そのカリキュラムをまた今度、高校の。だけど、これ小中高ってあるんだけど、じゃあ、いったいその減らした分はどこで勉強するのよ、になっちゃうわけですよ。大学じゃ教えてくれないから。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 そうです、そのとおりです。ちなみになんですけど補足で、今どの程度勉強しているかと、委員の皆さん、多分、勉強した年代が違うからイメージが湧かないと思うんですけど。現在、中学生が勉強している量は戦後最大量です。だから自分たちよりは少なくとも勉強する量が多いと思って。戦後最大量、ゆとり教育があれだけ批判があったから、そのリバウンドで。2番目に多いのが我々、ここ。だから、南委員と小口委員と私たちよりは少なくとも勉強量が多いというイメージで、ちょっとそれでどうするかっていうのを考えていただければ。小口委員

○8番 小口委員 私も娘が高校に入ったばかりで、進学クラスに入っちゃったんですけども、結構勉強する内容が難しくて、数学を聞かれても私、分かんないみたいな感じで大変なんですけど。こんなこと勉強して、果たして何の役に立つんだろうっていうのがあったりとか、そもそもの話なんだけど。でも、何かそうやって詰め込まれている時間を、もうちょっと何かほかの体験とかに回せば、もうちょっと何ていうか、あれなのかなって。競争がすごく今、世の中、激しいっていうか、競争社会で二極化しているっていうか。何か勝ち組、負け組じゃないですけど、何かそういうできない人を見下すみたいな風潮にもなっていくと思うので。もともとのレベルがある人だったら、そういうきっちりした勉強にもついていけるかもしれないけれども、でもそうじゃない子もいるから、何かそういう子たちに劣等感ばかり与えているような気はするんですよ。なので、もうちょっと余裕を持っていいいのかなと私は思います。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ほかにございますか。議長

○15番 入杉福祉文教常任委員会議長 私はね、カリキュラムを減らすっていうことは

反対なんです。なぜかという、小さいときに、今、小口議員がおっしゃった、こんなこと勉強してどうなる、何の役に立つのっていうことを思う前に、基礎学力をしっかりとつけないと。掛け算の九九を何の役に立つの、連立方程式は世の中に出て何の役に立つのっていう疑問が芽生えちゃう頃に一生懸命ね、詰め込もうと思うとそれは無理なんですよね。だから、できるだけ小学生のうちに基礎学力をつけるっていうのは、私の持論ですけどね。だからカリキュラムを減らすっていうことを、さっき言ったようにカリキュラムを減らすんじゃないかっていうところが私は視点なので。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 南委員

○9番 南委員 ちょっと、この文章の中で小中高を合わせると不登校がってあるんですけど、別に高校は行かなくてもいいわけですよ、義務教育じゃないんだからねっていうのがあって。そこは高校までも減らすのか、これは。義務教育じゃないところも合わせて言うのはどうかなと思うんですけど。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 請願者が公立学校教職員組合で、高校は公共層がありますので、これ請願の趣旨は小中高って入っているんだけど、学習指導要領について、小中学校だけという判断していいですか。紹介議員。

○14番 小出嶋委員 それはいいと思いますけど、ただ不登校のことを言うために高を入れたということだと思います。あとのことはみんな、これ小中だけのことで言っている。この国の教育課程基準っていう部分を、これは義務教育だから、そういうのが出てくるっていうことなんで。高校は特に、この中では、不登校のことはそこに一番最初に、ついでに載せてあるっていうことだと思いますけど。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 南委員

○9番 南委員 言いたいことは分かるんですけども、そのカリキュラムのオーバーロードと不登校がイコールではないとも思うんですよね、私はね。

○14番 小出嶋委員 うん、一つは、原因はそうだけだね。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 小口委員

○8番 小口委員 カリキュラムのオーバーロードが原因になっているっていうふうに短絡的にはもちろん言えないと思うんですけども。でも、大きな要因の一つには私はなっているだろうなと思って。先生が、余裕がなくて、管理、管理、もう本当に中学なんか管理っていう感じになっているんですよね。なので、その先生のマルトリートメントっていうか、怒鳴る先生が多いから学校に行けなくなったっていう子どもたちを何人も知っていますし、実際うちもそうなんですけれども。なので、何か先生の余裕のなさには絶対これはつながっていると思います。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 小出嶋委員

○14番 小出嶋委員 全然、この不登校の部分が今回のこのカリキュラムオーバーロードに関係ないっていうことではないと思います。高校はどうするかっていうのはあれですけど、いわゆる詰め込む教育のその過剰な負担が子どもたちに掛かっているっていう

ことで、そのために起こる不登校っていうのもあるんだと思います。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 小口委員

○8番 小口委員 何か子どもたちを見ていて思うのは、最近の子たちって何のために勉強するのかっていうのをすごく問いかけているんだけど、学校からはそういう回答が、思うような回答がないというか。校則もそうなんだけれども、何のためにやるのって言っても先生たちも、じゃあ、何のためっていう、思うような答えが返ってこなくて。なので、先生たちも自分たちが教えない量をこなすっていうことに一生懸命になっていて、それを子どもたちが押しつけられているというか、そういう形にもなっているような気がして。なので、何のために学ぶのかっていうことが、何かなおざり、おざりかなおざりか分かんないですけど、なったままで詰め込みの授業、詰め込み教育だけがもう昔からずっと続いてきているし、さらに最近はひどくなっているような気がします。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 白鳥委員

○4番 白鳥委員 カリキュラムオーバーロードと、もう先生自体のオーバーロードっていうかね、働き方のトータルのなものが昔に比べれば非常に重くなっているのかなっていうこともあるんで。先生たちの働き方自体の、もう非常に過度であったり、その中でさらにある程度こなさなきゃいけないカリキュラムが出てくるとなるとやはり、合わせて本当にオーバーロードじゃないけども、本当に先生たちが疲弊しちゃっているっていうのは目に見えてあるし。子どもたちも、やっぱりそういうのは影響出てくると思うんですよね。なので、カリキュラムオーバーロードの改善を求めつつ、先生方自体の働き方の改革を求めるっていうのが非常に大事じゃないかなと思いますんで。今回、請願がちょっとカリキュラムオーバーロードに寄っちゃっているんであれですけども、これも求めていく一つだと思いますんで、このカリキュラムオーバーロードの改善を求めるっていうことに非常に、進めていくためにも、こういう提案があったっていうことを私たちもしっかり受け止めなきゃいけないなというふうに思っています。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 南委員

○9番 南委員 皆さんの意見を聞く中で、ちょっと分かってきたっていうか、やっぱりもう戦後教育が全部おかしかったんだと思っていて、このオーバーロードとか言っているのも結局、過重負担とかって日本語で言えばいいところを、何かそういう英語で言ったり。何のために勉強するかとかの、そういった、そこが先生たちも分からないで、言われるままに勉強して先生になってきた人たちだから、そこが教えられないんですよね。だから、私は、本当は量が多いって言っているんじゃないで、本当は質を変えなきゃいけない、教育の質が間違っている話だと思って。それを何ていうか、そこに疑問を持たないで順調に来た人たちが先生をやっているわけですよ。だから、そういう今の問題になっちゃっているんで。本当は量じゃない、量が問題じゃないっていうのが自分の中で今、分かりました。

○15番 入杉福祉文教常任委員会議長 で、請願をどうするかね。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 小出嶋委員

○14番 小出嶋委員 先生たちの負担とか、そういうこと、これはそこに全部あるんですけれども。今回の請願は、このカリキュラムオーバーロードの改善を求めるということの趣旨での部分の請願ですので、問題としてはほかにもあるんだけど、この請願を出された人、人っていうか、趣旨はこのカリキュラムオーバーロードの改善を求めるという部分ですので。今回の請願としては、それをご理解いただきたいと思います。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 白鳥委員

○4番 白鳥委員 小出嶋さんが今、言ったとおりで、本当に質と問題とは非常にあると思います。ただ、それがカリキュラムを詰め込み過ぎると、やっぱり質というものはある程度、それをこなしていかなきゃいけないことが主眼になって、質を高める、理解力を高めるっていうことが、非常におそろかになっているっていうのが原因だと思います。それでも今回の趣旨は、そういうのも減らして、深く学びをしたいっていう多分、先生たちの思いもあって今回、出ていると思います。そこら辺も私ちょっと、採択の案内では判断したほうがいいかなと思います。問題は非常に本当にいろいろあって、ゆとり教育がどうだったかっていう、そういうのもあるものであれですけども、今回はちょっとカリキュラムオーバーロードっていうことで絞ってきているんで、それに関してちょっと判断をしたほうがいいかなと私は思います。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 中村委員

○13番 中村委員 ちょっとあんまりついていけなくて発言をしませんでしたが、先ほど委員長も、今一番大変な時期で、その後、小口さん、みんなも時期で。私たちはそれより、そこからかなり上の世代なので、自分のことを言うとほとんど勉強はしたことがなくて。そうです、もう大学に入ったときも、中村が入るんだったら俺も受ければよかったとか言われたくらいで。

○9番 南委員 人数、少なかったの。

○13番 中村委員 いや、25倍くらいはあったよ。授業でも大変苦労したんですけども。今回の請願は先ほど皆さんが言ったように、このカリキュラムオーバーロードだけが問題ではないことはあるんですけども、これも一部あるということで、この請願に対しては改善を求めていくということでいいんじゃないかという感じがします。また、そのほかにあったら、その出てきたときとか、自分で何か改善したいところがあれば、そういうところをいろいろ研究して、まとめて出すとか。そういうような形を取って、今回はこれを改善してもらいたいという請願なので、いろいろあると思いますけど、この部分も一部あるということで理解していただいて、請願書、意見書として出していこうということでよいのではないかと私は思います。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 南委員のおっしゃる教育の質に関しては今回、請願の中にも学習指導要領の内容の精選を行うことっていうふうに、ここを求めておりますので。単純に時間を減らせ、何とかを減らせということじゃなくて、質を見直せということ

も併せて要求しているので、ある程度は反映できているかなとは思いますが。南委員。

○9番 南委員 多分、この表題がカリキュラムの質と量の改善をとかなっていたら、私もちょっと、もっといいねってなったのかなって思いますね。質をもうちょっとってほしかったかな。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 白鳥委員

○4番 白鳥委員 こういうね、先生たちからそういう話が出たっていうことは、私たちも受け止めて、機会があれば先生たちから直接話を聞くっていうのが大事じゃないかと思うんで。ちょっと今、この意見書が請願の趣旨にちょっと外れている発言になるんですけども、そういうことも私、委員会としてね、また必要があると思いますんで。また委員長、そこら辺のことはご検討いただければと思います。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ただいま白鳥委員からの提案につきましては後ほど、閉会後に取り上げたいと思います。ほかにご意見ございますか。いいですか。よろしいですね、打ち切りますよ。

(「なし」の声あり)

○10番 寺平福祉文教常任委員長 それでは、質疑を打ち切ります。

討論に入ります。討論ございますか。

(「なし」の声あり)

○10番 寺平福祉文教常任委員長 討論なしと認めます。

採決を行います。

受理番号2番 カリキュラムオーバーロードの改善を求める意見書採択の請願について、採択することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ご異議なしと認め、採択すべきものと決定しましたので、その旨を本会議で報告いたします。

意見書の作成に入りますので、ご意見をよろしくお願いいたします。

読んでもらったほうがいいのかな、先ほども朗読いただいたので、もう一度、次長から朗読をお願いします。

○宮尾事務局次長 朗読

○10番 寺平福祉文教常任委員長 はい。以上、朗読が終わりましたので、ご意見お願いいたします。南委員

○9番 南委員 細かいですけど、先ほどの何か23年度っていうのが、2023年か令和5年に直したほうがいいんじゃないかなと。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 令和5年度。ほかにございますか。何か、シンプルだからね、こっちは。次長

○宮尾事務局次長 提案なんですけれども、小中高と書いてありますけれども、小中高校、

もしくは学校みたいにするほうが統一ができると思います。あともう一点ですけども、文科省調査って書いてありますけれども、文部科学省とって正式のほうがいいかと思います。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 そうだね、最初はね。うん。略称じゃなくてね。そのように修正をお願いします。ほかにございますか。

○14番 小出嶋委員 カリキュラムオーバーロードの説明（聴取不能）。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 これは入れないってことですよね、説明。えっ、入っている。これ、あんまり意味ないですけどね、意見書で用語説明。用語説明はあくまで、これ一般住民向けじゃなくて、もう要は専門職に出すものなので、別に用語説明は知っている人たちにし出すという前提ですので、これは削除で。文科大臣は知っているでしょう、さすがに。いやいや、これ、ここの用語説明。

○9番 南委員 ここで、その以上っていうのが、文字、小さくなっているのが。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 これ改善しますよね、文字の大きさ。議会の議案書の体裁に整えて、当日は出す形になります。

○9番 南委員 記の下の方の1番の学習指導要領の内容の精選等を行うことというところの、等を取って、精選を行うことと明快にしたらどうでしょうか。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 白鳥委員

○4番 白鳥委員 私も、その趣旨に賛同して等を取ってよろしいかと思います。

○10番 寺平福祉文教常任委員長 ご異議があれば。よろしいですか。じゃあ、等を削除で。いいです、頭で覚えられるレベルだと思うんで。等は削除。ほかはいかがですか。よろしいですかね。

では、修正事項を修正した上で、本会議に提出いたします。

以上で、福祉文教常任委員会の審査の全てを終了いたします。お疲れさまでした。

【請願・陳情 終了】

午前11時40分 閉会

福祉文教常任委員長

2 3 4 5

署名委員 第4番

白鳥真吾

署名委員 第8番

小口智世